



Bitcoin 過去最高値更新！
最短で資産10倍！

ビットコイン

バブル

関ジョージ [著者]
星野さき、Bコミ [監修]



過去最大の
バブル
到来！

このビックウェーブをGETせよ！

新NISA

iDeCo

株式投資

しかやらないのは
もったいない！



～前書き～

こんにちは関ジョージです。

ボクは2021年の仮想通貨バブルで資産を120倍に増やして仕事を辞め、DeFi運用とBCGの収益でタイ、マレーシアを拠点に生活しています。

現在、日本は多くの課題に直面しています。

少子高齢化、働き方の硬直化、そして経済の停滞。

賃金は上がらず、税金・社会保険料は高く、物価も上がり続け、当たり前を送ることすら困難になってきています。

何もしなければ現状を変えることはできません。

景気や社会情勢、国家の趨勢に左右されない人生を手に入れるためにはお金が必要です。

短期間で資産を大幅に増やす可能性が残された市場は、仮想通貨において他にはありません。

そのためには今から行動を開始しなくてははいけません。

この本を手にとったあなたは、ただの希望だけでなく、具体的な行動計画を持って、仮想通貨バブルの波に乗るための準備を整えることができます。

本書が、あなたのモチベーションを高め、未来に対する明確なビジョンを持って進む力となることを願っています。

～はじめに 2025年半減期に乗り遅れるな～

仮想通貨とバブルの関係は切っても切り離せない関係です。学生、主婦、会社員、経営者、多くの人が仮想通貨市場に参入し、多くの勝者を生み出しました。

しかし、それ以上に多くの敗者を生み出したのも、仮想通貨バブルです。

勝った負けたを繰り返しながら、仮想通貨投資を続けている人間が、なぜ今の枯れ相場においても仮想通貨投資を続けているのか？

それは“あの頃のパブルをもう一度”と誰もが考えているからです。

寝ているだけで毎日資産が20%、30%と増え、膨らみ続けていく含み益、毎日コミュニティの仲間たちと新たなIDO、ICOの新台幣情報を共有し、戦略を立てていく一体感。

短期間で異常な利益が出る仮想通貨パブルには他にはない中毒性があります。

なぜ本書を書いたのか？

数年前と異なり、書店の投資本コーナーにも多くの仮想通貨投資本が置かれるようになりました。

コイン・トークンの銘柄解説、NFTの買い方、DeFi運用のススメ、など

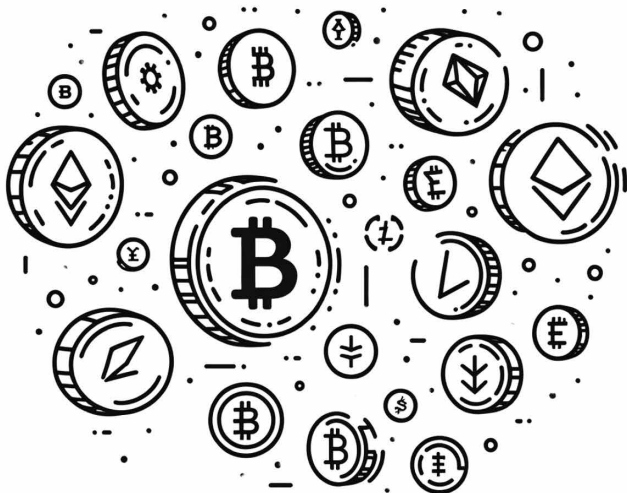
定点的な語り口の本はあってもパブル市場全体を俯瞰した立ち回りについて、言及しているものはありません。

仮想通貨パブルで必要になってくるのは事前準備と立ち

回りです。

本書を読んでいただいた皆さんの中で一人でも多くの方が利益を出していただけるよう解説していきますのでお付き合ってください。

関ジョージ





前書き	2
-----	---

第 1 章

Bitcoin半減期で なぜバブルが来るの？

1 Bitcoin とは？	12
2 半減期の概念	19
3 半減期がBitcoinに与える影響	20
4 バブルの正体とは!?	22

第 2 章

バブルに乗れない 残念な人の12の特徴

1 ニュースを見てから投資する	26
2 仮想通貨YouTuberを見る	29
3 インフルエンサーを信じる	35

4 X(旧Twitter)をやっていない	38
5 銘柄のファンになる	43
6 投資家向けセミナーに通う	47
7 オンラインサロン(有料)に入る	51
8 国内の販売所を使う	53
9 海外取引所を使わない	58
10 自分のウォレットを持っていない	61
11 ホワイトペーパーを読まない	64
12 Scanの見方が分からない	69

第 3 章

バブルに乗って 大儲けした現人神10人

1 ICOバブルの成功者	76
2 NFTが気づけば5億	78
3 DeFiバブルで無限の利回り	85
4 忘れていたBNB	89
5 ゲームしてたら2億円	91
6 Bitcoinマイニング工場長	97

7 MEMEコインで資産10000倍.....	101
8 歩くだけで1億6000万稼いだ男.....	108
9 ドメインに勝るものなし.....	116
10 大暴落トークンを買って爆益!?	121

第4章

今すぐしろ！ 億するための魔法の行動

1 毎週ETH、L2コインを積み立てる.....	132
2 オフラインで詳しい友達を作る.....	137
3 毎日チャートを確認する.....	141
4 DeFiの基礎をマスターする.....	142
5 BCGの違いを理解する.....	153
6 資金の流れを理解する.....	157
7 VCを理解する.....	159
8 IDOプラットフォームの目星をつける.....	161

第 5 章

レバレッジは必要ですか？

1 知っているようで知らないレバレッジ取引.....	166
2 ショート？ 意味ありませんよ.....	167
3 テクニカルは役に立たない.....	169
4 FRで削られて鼻血も出ねえよ.....	170

第 6 章

バブルでの ワンポイントアドバイス

1 天井で売りたい？ 無理です.....	174
2 目標を先に決めろ.....	175
3 仕事はサボれ.....	176
4 電波がない環境には行くな.....	179
5 寝るな.....	179

第 7 章

個人的に 期待している銘柄たち

1 Bitcoin(\$BTC).....	182
2 Ethereum(\$ETH).....	182
3 Arbitrum(\$ARB).....	184
4 Optimism.....	185
5 Astar.....	186

おわりに 1度のバブルは人生を変える	188
--------------------------	-----

第 1 章

Bitcoin半減期で なぜバブルが来るの？



1 Bitcoinとは？

Bitcoinは、2009年にサトシ・ナカモト（正体不明の人物またはグループ）によって作成された、最初の分散型デジタル通貨です。

分散型デジタル通貨について

分散型デジタル通貨を理解するためには、これまで私たちが当たり前に使ってきた従来の通貨について理解する必要があります。

これまでの通貨は国が中心となって発行、管理する中央集権型の通貨です。

中央集権型通貨

中央集権型通貨には以下の問題があります。

1. インフレのリスク

中央銀行が通貨の供給を制御するシステムでは、政府や中央銀行が通貨を過剰に発行する可能性があります。これにより、インフレが引き起こされ、通貨の購買力が減少します。

影響: 消費者と企業の購買力の低下、貯蓄の価値の減少、経済の不安定化



2. 金融政策の誤り

中央集権型の金融体制では、誤った金融政策を行うリスクがあります。適切な金融政策が実施されない場合、経済は混乱し、金融危機を引き起こす可能性があります。

影響: 経済の不安定化、失業率の上昇、事業の破綻

3. 緊縮財政政策の弊害

中央銀行が金利を引き上げるなどの緊縮財政政策を採用すると、借り入れのコストが増加し、投資と消費が抑制される可能性があります。

影響: 経済成長の遅延、事業の破綻

4. 不平等

中央集権的な通貨システムは資産と権力の不平等を増大させる傾向があります。金融機関は、特定の集団や個人に対して利益を集中させる可能性があります。

影響: 社会的・経済的不平等

5. 財政的な依存

国や個人が中央銀行の政策や操作に依存することで、経済の健全な機能が妨げられる可能性があります。

影響: 金融システムの脆弱性、経済の不安定性

6. 通貨の国際的な操作

中央集権型の金融体制では、国が他国の通貨を操作する

可能性があります。

影響: 通貨戦争、国際的な経済の不安定化

7. プライバシーの侵害

中央集権型の通貨システムでは、金融取引のプライバシーが犠牲になる可能性があります。

影響: 個人の金融プライバシーの侵害

以上が従来の中央集権型通貨の問題点です。

政府や中央銀行が価値の裏付けを行っている代わりに、取引の自由性やプライバシーが犠牲になっています。そして通貨の価値はそのまま国力に依存しているので、相対的に国力が下がると通貨価値も下落します。

分散型デジタル通貨

Bitcoinに代表される分散型デジタル通貨は、ブロックチェーン技術を活用することによって、管理者のいない直接取引をユーザー間で行うことができます。

従来の通貨に比べて分散型デジタル通貨には以下の利点があります。

1. 分散化

Bitcoinは、国家や中央銀行によって制限されることなく、分散型のネットワークで動作します。これにより、組織や政府によって制御や操作されることなく運営が可能と



なります。

影響: システム全体の透明性の向上、政府や金融機関による干渉の削減

2. 低コストの国際送金

Bitcoinは国境を越えて迅速かつ低コストで送金することができます。従来の国際送金システムであるSWIFTと比べ、取引コストと処理時間を大幅に削減することが可能です。

影響: グローバルな取引の促進、取引コストの削減

3. 透明性

すべてのBitcoinの取引は、公開されているブロックチェーン上で追跡と検証が可能です。

影響: 取引の透明性と信頼性の向上

4. 包括的な金融システム

Bitcoinは、銀行口座を持たない人々にも、金融サービスへのアクセスを提供します。

影響: 金融サービスへのグローバルなアクセス、金融の包括性の向上

5. 不変性

Bitcoinの取引は、トランザクションが承認されると変更することができません。これにより、詐欺や不正な取引

が防止されます。

影響: セキュリティと信頼性の向上

6. プライバシー

Bitcoinでの送金・受金には本人確認書類を提出する必要がないため、利用者に対して高度なプライバシーと匿名性を提供することができます。

影響: ユーザーのプライバシーの保護

7. 制限のない送金

従来の銀行送金システムでは休日やシステムメンテナンス、窓口が遠方にあることなど、送金に対して時間的制限と距離的制限が存在します。

しかし、Bitcoinは、資金の移動に関して時間や場所の制限なく送金することが可能です。

影響: いつでも利用可能、迅速な取引

8. 供給の制限

Bitcoinの最大供給量は、2100万BTCに制限されています。これにより、インフレのリスクが減少します。

影響: 通貨の価値の維持

9. スマートコントラクト

Bitcoinではありませんが、後述するEthereum（イーサリアム）に代表される分散型デジタル通貨は、自動実行



契約(スマートコントラクト)を使用することで、あらかじめプログラムされた取引やアプリケーションの実行を行うことができます。

影響: 取引の自由化、セキュリティの向上、信頼性の高い取引

10. イノベーション

Bitcoinとブロックチェーン技術は、金融サービスや他の産業におけるイノベーションを促進することができます。

新しいビジネスモデルと機会の創出

分散型デジタル通貨は従来の通貨の欠点を補うために作られました。

通貨価値の担保を国が行うのではなく、分散化したネットワークによって担保しています。

なので、本質的には世界経済に左右されない唯一の通貨です。

従来の通貨との最も大きな違いは金融包括性です。日本ではほぼすべての人が銀行口座を持っています。しかし、発展途上国には7割以上の国民が銀行口座を持っていない国も存在します。Bitcoinに代表される分散型デジタル通貨ではインターネットに接続できる環境さえあれば、金融市場にアクセスすることが可能になります。これによって金融市場の潜在顧客を大きく増やすことに成功しました。

成り立ち

Bitcoinの概念は、2008年にサトシ・ナカモトによって公表され、2009年にオープンソースソフトウェアとしてリリースされました。サトシ・ナカモトの身元は不明ですが、彼の目的は金融機関を介さずに、オンラインでの取引を可能にする新しい電子キャッシュシステムを作成することでした。

Bitcoinの歴史

2009年: Bitcoinネットワークが公式に立ち上がり、最初のBitcoinがマイニングされます。

2010年: 最初のBitcoin取引が行われ、商品やサービスとBitcoinを交換することが可能になります。

2013年: Bitcoinの価格が初めて1,000ドルを超えます。

2017年: Bitcoinの価格が一時的に19,000ドルを超え、広範なメディアの注目を集めます。

2021年: Bitcoinの価格が約67,000ドルに到達し、大手企業や国が参入を検討し始めました。

Bitcoinの利用技術

Bitcoinのトランザクションは、複雑な暗号化技術を使用してセキュリティが確保されています。ユーザーはデジタルウォレットを使用してBitcoinを送受信し、プライベートキーを使用してトランザクションを承認します。



Bitcoinのマイニングは、コンピューターを使用して複雑な数学的問題を計算し、承認されることで報酬を得られる設計になっています。

2 半減期の概念

Bitcoinの半減期とは？

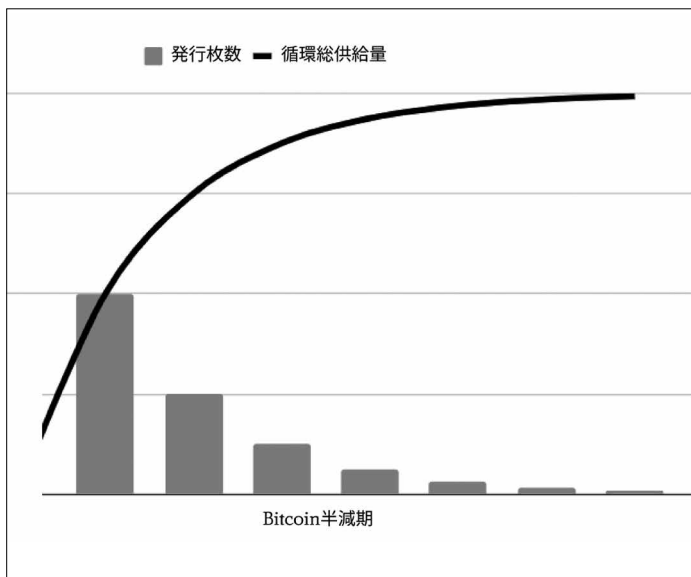
Bitcoinの半減期は、Bitcoinのブロック報酬が半分に減少するイベントを指します。ブロック報酬とは新しいブロックを生成した際にマイナー(マイニングを行う人)に与えられる報酬のことです。半減期が起こればマイナーに与えられるBitcoinの報酬は半分に減ります。

このイベントは、Bitcoinネットワークが開始されてから約4年ごと(正確には210,000ブロックごと)に発生します。Bitcoinの半減期は、Bitcoinの供給量が時間とともに減少することを意味し、これがBitcoinの希少性を高める主要因の一つです。

Bitcoinの半減期の背景

Bitcoinはサトシ・ナカモトによって設計された時点で、総供給量が2100万BTCに制限されています。この上限は、Bitcoinがインフレに対して耐性を持つよう設計されていることを示しています。通常の法定通貨の場合、中央銀行は通貨の供給量を調整できますが、Bitcoinではこのよう

なことはできません。この特性は、Bitcoinをデジタルワールドとして非常に魅力的にしています。



3 半減期がBitcoinに与える影響

1. マイナーへの影響

Bitcoinの半減期は、マイナーに大きな影響を与えます。半減期が発生すると、マイナーが受け取る報酬が半分になります。その結果マイナーは新たにマイニングする費用との採算を取るためにBitcoinの価格が上昇するまで売却せずホールドすることとなります。



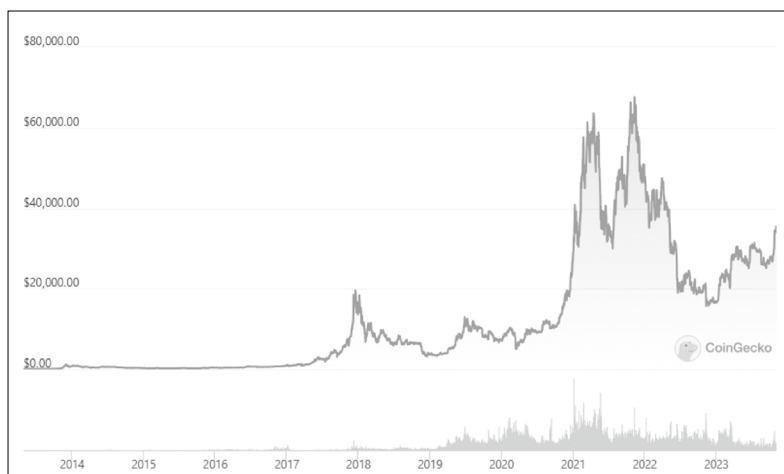
2. 価格への影響

過去の半減期イベントは、Bitcoinの価格にポジティブな影響を与えてきました。報酬の減少は、新しいBitcoinの供給量を減少させ、既存のBitcoinの希少性を高めます。従来通りであれば、次の半減期も価格上昇の引き金となる可能性があります。

3. 市場への影響

半減期イベントは、投資市場全体の注目を集めてきました。これが価格の変動性を高める可能性があります。結果として、半減期イベントの前後でBitcoinの価格が大幅に変動してきました。

【Bitcoin チャート】



これまでの半減期

2012年の半減期

日付: 2012年11月28日

ブロック報酬: 50 BTC から 25 BTC

価格影響: 半減期の1年後、Bitcoinの価格は約13倍になりました。

2016年の半減期

日付: 2016年7月9日

ブロック報酬: 25 BTC から 12.5 BTC

価格影響: 半減期の1年後、Bitcoinの価格は約20倍になりました。

2020年の半減期

日付: 2020年5月11日

ブロック報酬: 12.5 BTC から 6.25 BTC

価格影響: 半減期の1年後、Bitcoinの価格は約5倍になりました。

4 バブルの正体とは!?

事実として、Bitcoinは半減期を契機にして仮想通貨バブルを引き起こしてきました。しかし、半減期はあくまで



着火剤です。火付け役は別に存在します。

過去のデータを見ると分かるように、Bitcoinの半減期直後に価格が急騰するわけではありません。通常、半年～1年の期間を経過してバブル相場が始まります。半減期が与えるのは着火剤として市場に燃料を投下しているだけです。

火付け役となるのは強烈なトレンドです。

Bitcoinの半減期を着火剤として、強烈なトレンドが火付け役となることで仮想通貨バブルは始まります。

強烈なトレンドは仮想通貨バブル毎に異なっています。

例えば2016年のバブルはICO（イニシャル コイン オフアリング）バブルです。

ADAやXRPのICOコインが急騰を見せることで市場に火が付きしました。

2021年のバブルはDeFiバブルです。

以前からDeFiではUniswapが人気でしたが、PancakeSwapが火付け役となり、バブルが始まりました。

半減期そのものにバブルを引き起こす力はないかもしれませんが、半減期の後に登場するトレンドがバブル火付け役としての機能を持っています。

着火剤、火付け役、が揃い、火をさらに大きくするためには、薪が必要になります。薪となるのは、資金力の大き

な資本家です。資本家の目的はもちろん利益を出すことです。

一般投資家が市場の流れに乗ることで利益を求めるのは違い、彼らは相場を操縦することで利益を出しています。

相場を操縦するためには、資金効率を高めることはもちろんですが、一番必要なことは一般投資家にも同じ目線で行動をさせることです。

半減期後というのは、資本家の相場操縦によって一般投資家を動かすことが最も容易になるタイミングです。資本家が最初の薪となり、一般投資家が後から薪となることで仮想通貨バブルはより大きなものになります。

仮想通貨バブルとは、半減期を着火剤、強烈なトレンドを火付け役、資本家を薪とすることで生まれる異常な価格急騰イベントです。



第 2 章

バブルに乗れない 残念な人の12の特徴



仮想通貨バブルは軒並みコイン・トークンの価格が上昇する誰でも利益の出せる相場です。

しかし、全く利益を出せなかったり、逆に大きく損をしてしまった人もいます。

この章では、なぜバブル相場にもかかわらず利益を出せなかったのか、その特徴について紹介していきます。これから仮想通貨投資を始める初心者の方でも、すでに投資経験のある中級者の方でも、必ず気にしてほしい内容となっています。

1 ニュースを見てから投資する

バブルに乗れない残念な人の特徴1つ目は“**ニュースを見てから投資する**”です。

その問題点は以下の通りです。

1.情報の遅延

メディアの報道は、市場の動きに対してタイムラグがあります。情報が放送される頃には、市場の価格はすでにその情報を織り込んで変動しています。

結果:遅れて投資を行うことで、高値で買ってしまうリスクがあります。



2. 価格の乱高下

メディアの報道によって、多くの投資初心者が同時に投資を開始することがあります。短期的な価格の上昇と下降に巻き込まれる可能性が高まります。

結果:無秩序な価格の乱高下に巻き込まれるリスクが上昇します。

3. 情報の欠落

テレビやメディアは一方的な情報や意見を提供する可能性があります。これは、投資家が全体的な市場の状況やリスクを十分に理解せずに投資判断を下す可能性を高めます。

結果:不十分な情報に基づいて行われる投資判断は、損失のリスクを増大させます。

4. 感情的な判断

メディアの報道によって、感情的な投資判断を行ってしまう場合があります。

感情的な投資判断によって、分析内容が乱れる可能性があります。

結果:感情に基づいて投資を行うと、損失を被る可能性が高くなります。

5. 分析の不足

メディアの報道に依存する投資家は、自分自身で市場の分析やリサーチを怠る可能性があります。これによって、投資

家は市場の動向やリスクを分析する能力が向上しません。

結果:情報に踊らされ、不利な投資をするリスクが上昇します。

まとめ

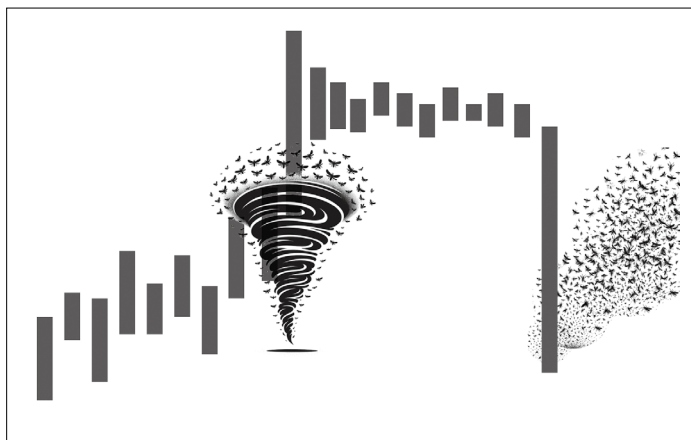
ニュースを見てから投資を行ってはいけません。

ニュースを見た投資家のとるべき行動は、購入ではなく、売却の準備をすることです。

前回の仮想通貨バブルにおいて、最初にニュースに取り上げられたタイミングは、Bitcoinが最高値を更新したタイミングです。

最高値を更新するということは、過去の情報や指標が通しない相場に突入するということを意味します。

ニュースになった時に投資を始める、追加投資をする戦略は、大きなリスクを抱えることにつながります。





そして大々的に報道された後に乗っかる人間は俗に「イナゴ」と言われ、先行で投資していた投資家の利確に巻き込まれ、損失を被るリスクが増大します。

投資家としてとるべき行動は、ニュースになる前に投資を開始し、ニュースを見た後に売却の準備を進めなければなりません。

2 仮想通貨YouTuberを見る

バブルに乗れない残念な人の特徴2つ目は“**仮想通貨YouTuberを見る**”です。

その問題点は以下の通りです。

1. 情報の質と信頼性

すべてのYouTuberが信頼性の高い情報を提供しているわけではありません。

一部のYouTuberは、独自の調査や分析をせずに情報を提供していることもあります。

結果: 誤った情報に基づく投資判断が行われ、損失のリスクが増加します。

2. ポジショントーク

YouTuberは、特定の仮想通貨やプロジェクトの依頼を受けて、情報発信を行っている可能性があります。

結果:無条件に推奨される仮想通貨やプロジェクトが、実際には質が低い場合やリスクが高いものである場合があります。

3. FOMO (見逃し恐怖症)

YouTuberの影響を受けた多くの視聴者が同時に投資を開始することがあります。

これにより、短期的な価格の上昇が起こり、FOMOに陥る可能性が高まります。

FOMOとは別名、見逃し恐怖症と言われ、他人が利益を上げている様子を見て、自身も利益を出さなければと焦ってしまう心理状態です。

結果:FOMOに陥った投資判断は分析内容を狂わせる可能性が上がります。

4. 感情的な判断

YouTuberのマーケティングによって、感情的な投資判断を行ってしまう場合があります。感情的な投資判断によって、分析内容が乱れる可能性があります。

結果:感情に基づいて投資を行うと、損失を被る可能性が高くなります。

5. リサーチ能力の停滞

YouTuberの意見をそのまま受け入れることで、投資家自身が独自のリサーチや調査を怠る可能性があります。



結果:単一の情報源に依存することは、市場の動向やリスクを適切に分析する能力が育たず、リサーチ能力欠如の原因になります。

6. 情報の過度な簡略化

YouTuberは、情報を短時間で伝えるために、情報を簡略化して伝える場合があります。

結果:簡略化された情報だけに依存することで、正確な分析ができず、リスクの大きい投資判断をする可能性が高まります。

まとめ

投資のためにYouTubeを参考にすると不要なリスクを抱えることにつながります。ここからは具体的にどのようなYouTuberが存在し、どのようなリスクを孕んでいるのかについて見ていきましょう。

仮想通貨系のYouTubeチャンネルは大きく分けて3種類に分類することができます。

タイプ1 テクニカル情報分析系

テクニカル情報分析を信用してはいけません。

彼らはテクニカル分析によって将来のチャートを予測し、情報を発信しています。

しかし、テクニカル分析とは、過去のチャートの値動きを、後から説明するために作られたものです。将来価格の上下を完全に予測することは不可能です。

予測が当たった場合は大々的に実績として公表しますが、外れた時は無視して情報発信を続けています。

彼らがトレードで生き残っている要因は、多くの時間をトレードに費やせる環境、資金管理に寄るところが大きいのです。

チャート形状が変化することによって、テクニカル分析の結果は常に変化し続けます。撮影や編集にかかる時間を加味すると撮影時と情報発信時点では意見が変わっていることもあります。

24時間アドバイスを受けることができ、自身の資産状況をリアルタイムで伝えられる環境でもなければ信頼するべきではありません。

YouTubeを見ていては自分自身で判断する能力を育てることもできませんし、日中別の仕事をしなければならぬい皆さんが参考にするべきではありません。

タイプ2 プロジェクト情報発信系

プロジェクト情報発信者の多くはBCG（ブロックチェーンゲーム）を中心に発信しています。特に気を付けるべきことは、そのYouTuberがリサーチャーなのか、マーケットなのかです。



リサーチャーの場合は視聴するメリットも多少あります。仮想通貨投資家として気を付けるべきことは“プロジェクトの存在を知らなかった”ということです。リサーチャーは新規のプロジェクトを個別に紹介するので“プロジェクトの存在を知らなかった”を減らすことができます。

続いてマーケターについてです。

マーケターはプロジェクトを紹介することで報酬を得ています。

プロジェクトの紹介は、プロジェクト側からの台本を元に作られているため、リスクについての言及は無く、プロジェクトの良い面のみを語っている場合がほとんどです。

また、BCG系のYouTuberに共通していることは、投資としての知識レベルがあまりにお粗末であるということです。

BCG系YouTuberはゲーム部分を魅力的に発信した方が再生数が稼げることもあり、投資として必要なトークンエコノミクスや流動性について発信している仮想通貨YouTuberは2023年10月時点では0です。ゼロイチの知識を得るためにリサーチャーをチャンネル登録することは百歩譲って大丈夫ですが、投資という側面においてマーケターのチャンネル登録は即刻解除すべきです。

では、リサーチャーとマーケターの見分け方はどのようにすればいいのか？

プロジェクトを単発で紹介している人はリサーチャー、1つのプロジェクトを複数回紹介している人はマーケターだと考えてください。

ただしリサーチャー、マーケターを問わず、多くのYouTuberが同時に同じプロジェクトを紹介し始めた場合は注意が必要です。

プロジェクト側がプロモーションの一環として、多くのYouTuberに案件依頼を出しています。

必ず自身で、プロジェクト内容を調べてリスクを把握してください。

案件やマーケターの紹介するプロジェクトすべてがダメというわけではありませんが、プロジェクトのリスクを知らない投資は投資ではなくギャンブルです。いつか必ず痛い目を見ます。

タイプ3 虹色系YouTuber

最も気を付けるべきYouTuberとして虹色系YouTuberという人たちがいます。

彼らはサムネイルに虹色を多用し、100倍、1000倍等の、明らかに実現不可能な投資倍率を記載することで、視聴者に投資銘柄を紹介しています。

この虹色系YouTuberは知識レベルがかなり低く、見せかけの倍率で視聴回数を稼ごうとする人たちなので、全員知識レベルは素人に毛が生えた程度です。

チャンネル登録をすぐに解除することをおすすめします。



3 インフルエンサーを信じる

バブルに乗れない残念な人の特徴3つ目は“インフルエンサーを信じる”です。

その問題点は以下の通りです。

1. 情報の信頼性

すべてのインフルエンサーが十分に情報を検証してから発信しているわけではありません。中には、誤った情報や不完全な情報を流布するインフルエンサーも存在します。

結果:投資家が誤った情報に基づき投資判断を行い、大きな損失を被るリスクがあります。

2. ポジショントーク

インフルエンサーは特定のプロジェクトのプロモーション料を受け取っている場合があります、これにより偏った情報を発信する可能性があります。

結果:無条件に推奨される仮想通貨やプロジェクトが、実際には質が低い場合やリスクが高いものである場合があります。

3. FOMO (見逃し恐怖症)

インフルエンサーの影響を受けた多くの視聴者が同時に投資を開始することがあります。これにより、短期的な価

格の上昇が起こり、FOMOに陥る可能性が高まります。

結果:FOMOに陥った投資判断は分析内容を覆す可能性が上がります。

4. リサーチ能力の停滞

インフルエンサーの意見をそのまま受け入れることで、投資家自身が独自のリサーチや調査を怠る可能性があります。

結果:単一の情報源に依存することは、市場の動向やリスクを適切に分析する能力が育たず、リサーチ能力欠如の原因になります。

5. エコチェンバー現象

インフルエンサーは多くのフォロワーやファンを抱えているため、発信する情報に肯定的な意見ばかりが集まる可能性があります。

結果:同一の意見のものばかりが集まる環境では、それが正解であるかの如く勘違いしてしまい、リスク面を把握することが困難となります。

まとめ

インフルエンサーを信じてはいけません。これは“**インフルエンサーのファンになってはいけない**”ということです。インフルエンサーを信じ、ファンになることの何が問題なのでしょうか？

まず先ほどの“YouTubeを見て投資してはいけない”で



も解説しましたが、インフルエンサーにもリサーチャーとマーケターの2種類があります。

基本的な注意点はYouTuberと同様ですのでここでの解説は省略させていただきます。

インフルエンサーは信用したり、ファンになったりするものではなく、利用するものという認識を持ってください。私たち投資家にとって利益を最大化するためにインフルエンサーの力は必須です。

インフルエンサーが市場で担っている役割は各プロジェクトに多くのユーザー、投資家を巻き込むことです。

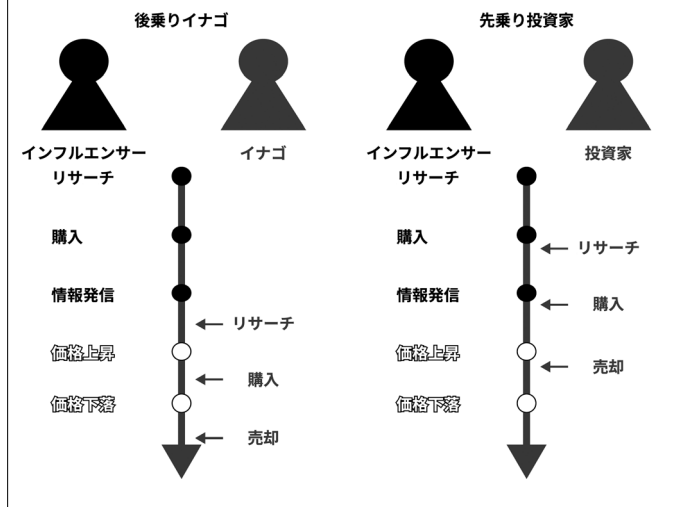
インフルエンサーに乗せられて投資を開始してしまっは、その時点で負けです。

投資の基本は、参加者の少ない状態で参入し、参加者が増えるタイミングで利確することです。インフルエンサーがすでに情報を発信してしまっている場合、すでに市場での認知度が上がってしまっています。

当然、多くの先行投資者が存在するので、トークン価格が上がった場合は、先行者達の利確に巻き込まれ資金をすり減らすことになります。

私たち投資家はインフルエンサーが投稿する前に購入し、インフルエンサーが投稿した直後の上げで利確するよう努めなければなりません。

インフルエンサーは利用するもの



4 X(旧Twitter)をやっていない

バブルに乗れない残念な人の特徴4つ目は“X(旧Twitter)をやっていない”です。

その問題点は以下の通りです。

1. 情報取得の遅れ

仮想通貨のニュースや動向は、Xを通じてリアルタイムで共有されます。多くのプロジェクトの公式アップデートやデベロッパーの情報発信の情報を取得できない可能性が



あります。

結果:Xを利用していない人は、重要な情報を即座に受け取る機会を失う可能性が高く、市場の動向に対応するスピードが遅れるリスクがあります。

2. 多角的な視点の不足

Xは多様なバックグラウンドを持つ人々が意見を発信するプラットフォームであるため、多角的な情報や意見を収集するのに適しています。

結果:Xを利用していない人は、市場の一般的な意見や情報の偏りを感知するのが難しくなり、偏った情報のみに基づく投資判断のリスクが増加します。

3. コミュニティとの接触不足

仮想通貨のプロジェクトやトークンごとに、コミュニティが形成されており、Xはそのコミュニティの活動の中心地となっている場合が多いです。

結果:Xを活用していない人は、そのコミュニティでの情報共有やディスカッションに参加する機会が失われます。

4. 詐欺プロジェクトの情報取得ができない

X上では、フィッシング詐欺や偽情報に関する警告が頻繁に共有されます。

結果:Xを利用していない人は、これらのリスクから自身

を守るための情報を得る機会が少なくなり、詐欺や偽情報の被害を受けるリスクが高まる可能性があります。

5. トレンドの感知遅れ

新しい技術やプロジェクト、トレンドはX上で早期に議論され、注目されることが多いです。

結果: Xを利用していない人は、新しいトレンドや市場の動きを感知するのが遅れる可能性があり、その結果、投資のチャンスを逃すことがあります。

まとめ

仮想通貨投資においてXは必須です。

プロジェクト情報は、発信する媒体や優先度に応じて3つの階層に分けることができます。

1次階層情報

プロジェクトの運営者が最初にプロダクト情報やアップデート情報を発信することを1次階層情報といいます。1次階層情報は、ホワイトペーパー、Medium、Xなどを通じて発信されます。最も正確な情報を取得できるので、信頼のおける情報取得先です。すでに投資しているプロジェクトや注目しているプロジェクトについては、1次階層情報を確認することが必須です。

しかし、一時階層情報は一日で数百件以上の情報が追加



されます。すべてのプロジェクトの発信する情報を個人で追っていくことは事実上不可能です。

2次階層情報

X上で個人や企業がリサーチして発信した情報は2次階層情報といわれます。

2次階層情報は発信者の信頼性に多少の問題はありますが、うまく使いこなせればプロジェクトを“知っている”、“知らない”の1か0かを埋めるために最も有益な情報媒体がXです。

2次階層情報を調べ、自分が投資してもいいかと思えるプロジェクトに出会った際には1次階層情報を取得するという動きが理想的です。

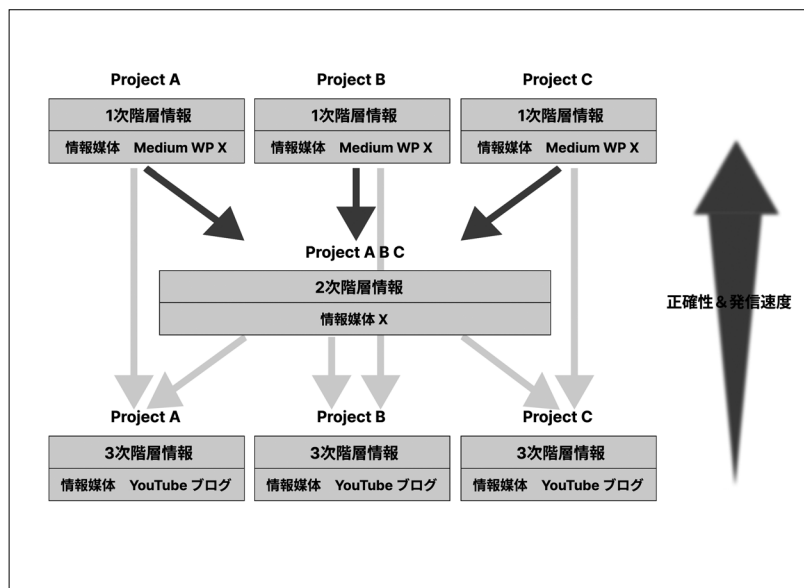
3次階層情報

3次階層情報とはYouTubeやブログなどから発信されている情報です。

2次階層情報との違いは情報発信速度です。

YouTube動画を作ったりブログ記事を書く時間とXの投稿速度には大きな違いがあります。3次階層情報がすでに発信された段階では、トークンの値動きやトレンドの変化が終わっている可能性があり、メインの情報源とするには発信速度が遅すぎます。

Xの必要性は2次階層情報を取得するためにも必須です。そのほかにもXは、プロジェクトの詐欺を未然に防ぐことに役立ちます。



一部のXアカウントではトークンがパンケーキスワップやユニスワップなどのDEX(※1)に上場した際にはそのトークンがハニーポッド(※2)かどうかを逐一発信してくれる有益なものがあります。

仮想通貨の詐欺手法も常に進化していることから絶対に安心というわけではありませんが、プログラムコードの読めない大多数の人にとって投資をサポートしてくれることに違いはありません。

※1 DEXとは中央管理者(運営企業)を介することなく仮想通貨の取引を行うことができるサービスです。

※2 ハニーポッドとは“買えるけれど売れない”トークンです。プログラムのコードを操作することによりユーザ



ーが買うことしかできないトークンを作成し、資金が集まったタイミングで流動性を抜くことで資金を回収します。

以上のことから、仮想通貨投資にXは必須ツールです。信頼の置けるアカウントをフォローできるかどうかが大切になってきますが、注意点は2節でも記載している、マーケットとリサーチャーをしっかりと判別することが大切です。

また、発信する情報によって個人や企業のポジションでも発信内容がブレてきます。情報精度を高めるために様々な立ち位置、考え方の人をフォローすることが大切です。

5 銘柄のファンになる

バブルに乗れない残念な人の特徴5つ目は“銘柄のファンになる”です。

その問題点は以下の通りです。

1. 感情的な投資判断

銘柄のファンになることによって、感情的な投資判断を行ってしまう場合があります。感情的な投資判断によって、分析内容が乱れる可能性があります。

結果: 根拠のない楽観的な見解や、他の情報源からの警告を無視することで、不適切なタイミングでの購入や

保有を続ける結果となる可能性が高まります。

2. 情報の偏り

特定の銘柄やプロジェクトのファンになると、その銘柄に関するポジティブな情報のみを収集・信じる傾向になる可能性があります。

結果: 一方的な情報収集は、市場全体や他の競合するプロジェクトの動向を見逃すリスクを生む上、投資判断の幅を狭める可能性があります。

3. コミュニティのエコーチャンバー効果

銘柄の熱心なファンが集まるコミュニティは、しばしばエコーチャンバー(同じ意見が反響し合う空間)となることがあります。

結果: このようなコミュニティでは、批判的な意見や異なる視点が排除されやすく、市場のリアルな動向やリスクを正確に把握するのが困難となります。

4. 売却タイミングの遅れ

銘柄のファンとして執着することで、市場の下落時やプロジェクトの問題発生時にも売却をためらう可能性が高まります。

結果: さらなる損失を被るリスクが高まる可能性があります。



5. 偏ったポートフォリオ

投資ポートフォリオの多様性は、リスクを分散させる重要な要素となります。特定の銘柄のファンになることで、その銘柄への過度な投資を行ってしまう可能性があります。

結果: その銘柄に起こる不利な動向や市場の変動がポートフォリオ全体に大きな影響を及ぼす可能性が増加します。

まとめ

銘柄のファンになってはいけません。

それはインフルエンサーを信じてファンになることと同様の問題をもたらします。

銘柄のファンになるということは利確のタイミングを先伸ばしにし、損切を困難にするということです。

私たち投資家の目的はお金を増やすことです。1つの銘柄に惚れ込むことはポートフォリオを偏らせることになります。ポートフォリオが偏れば、その分大きなリスクを抱えることにつながります。

投資初心者にありがちなことですが、1つの銘柄を見つけるとその銘柄が100倍以上になるのではないかと期待を寄せて下落するまで握り続けてしまうことがあります。

こうならないための対処法は1つだけです。

できるだけ多くの銘柄に触れ、詳しくリサーチしてください。数多くの銘柄を見ることで、大多数の銘柄には、そ

こまでの革新性がないことに気づくでしょう。

プロジェクト選定の目を養うためには数をこなすこと以外に近道はありません。

マーケティングがしっかりしているプロジェクトは伸びるという人もいますが、その説明は完全ではありません。マーケティングにも種類があり、費用対効果のあるマーケティングをしっかりとできているかを注視しなければならないのです。

例えば有力なベンチャーキャピタルからの出資や、大手のゲームギルドなどとのパートナーシップなどはマーケティングとしての費用対効果がとても大きいです。

Xでのプロモーションやテレビ広告などは確かに大衆の目に止まりますが、その分大きな資金が必要となります。

マーケティングで費用がかさめば、その分プロジェクトの資金の食いつぶし、トークン譲渡による価値の希釈化によってトークン価格の下落を招く恐れもあります。

いいプロジェクトを選定するためには“プロジェクト内容にこれまでにない革新性があるか”、“市場のニーズに適合しているか”を気にする必要があります。

必要なことは自分の目で見て判断することです。



6 投資家向けセミナーに通う

バブルに乗れない残念な人の特徴6つ目は“投資家向けセミナーに通う”です。その問題点は以下の通りです。

1. 商業的動機

多くの投資セミナーは商業的な動機で行われており、その真の目的は参加者からお金を稼ぐことや、特定のプロジェクトやプロダクトの宣伝が隠れている場合があります。

結果: 参加者は、客観的な情報や教育よりも、主催者の利益を重視した内容を学ぶリスクが高まります。

2. 時代遅れの情報

仮想通貨の世界は日々急速に変化しています。セミナーの内容は、資料を使いまわすことも多く、常に最新の情報や動向を反映しているわけではありません。

結果: 過去のデータやトレンドに基づく情報は、現在の市場状況と合致しない可能性があります。

3. 一方的な情報提供

セミナーは多くの場合、一方的な情報の提供となります。質疑応答のセッションがあっても、十分な議論や質問の機会が得られない場合が多いです。

結果: 参加者は、セミナーの講師や主催者の意見や解釈を

鵜呑みにする傾向が生まれる可能性があります。

4. 高額な参加費

一部の投資家向けセミナーは、非常に高額な参加費を要求することがあります。

結果: 投資の初期段階で大きな出費を伴うことは、ROI (投資収益率) を低下させる要因となる可能性があります。

5. ネットワークの偏り

セミナーの参加者や主催者は、特定のグループやコミュニティに偏ることが多いです。

結果: このような狭いネットワーク内での情報交換は、情報の多様性や視点の広がりを制限するリスクがあります。

まとめ

投資家向けのセミナーに通うのは絶対にやめてください。特に銘柄の紹介や、これを買えば儲かるといった文言をパンフレットに記載しているようなセミナーの大部分は悪質なものです。セミナーにもいくつか種類がありますのでそれらを紹介していきます。



高額商材型

このパターンは仮想通貨の知識を勉強するために高額な商材を販売して利益を出しています。

商材自体の中身は大した内容ではなく、1年以上同じ資料を使い続けることもあります。

最新のトレンドに全く追いついていません。

さらに商材販売後はアフターサポートといって、提携先のプロジェクトのトークン購入をおすすめしてくるので、吸収できる知識が偏るだけでなく、リスクの高い投資をさせられる可能性があります。

無料セミナー相談型

最初は仮想通貨の無料セミナーといって、仮想通貨に関する知識の勉強会を開催しています。

ターゲットとしては高齢者を対象として行われることも多く、老後資金の準備、お子さんへの遺産を少しでも増やしましょう、といった触れ込みで行われることが多いです。

仮想通貨の始めかたが分からず、インターネットから情報収集を行う能力が低い、高齢者をターゲットとして行われています。

仮想通貨の売買代行などでの中間手数料、提携先プロジェクト紹介でのプロモーション報酬などから利益を得ています。

マルチ商法型

現在最も多いセミナー形態です。

最初は無料相談型のように無料のセミナーから勉強の商材の購入を促し、購入者に販売を委託することで利益を狙っています。

商材購入者に月々、一定額以上のトークン購入を義務付ける団体もあり、売買を代行することで中間取引手数料を稼いでいる団体もあります。

悪質な団体では売買代行と偽って、最終的に資金を持ち逃げすることもあり、手を出した時点で資産が一気に減ってしまいます。

これらのセミナーに参加した時点で、セミナー外の情報を封鎖されるので抜け出すことが困難となります。仮想通貨の情報収集の際には、できるだけ広い視点でリサーチを行う必要があります。“私たちからの情報のみを信じてください”といったスタンスのセミナーは総じて悪徳なものになりますので絶対に信じてはいけません。

	金額	売買代行	提携先 プロジェクト紹介	ターゲット層
高額商材型	数十万以上	○	△	30代～50代
無料セミナー型	無料	☆	☆	60代～
マルチ商法型	数十万以上	△	○	20代～30代



7 オンラインサロン(有料)に入る

バブルに乗れない残念な人の特徴7つ目は“オンラインサロン(有料)に入る”です。

その問題点は以下の通りです。

1. 高額な料金

一部のオンラインサロンは非常に高い月額料金を設定していることがあります。

結果: 初心者や小額投資者にとっては、その料金だけで大きな損失となり得ます。サロンの内容が料金に見合った価値があるかどうかは明確でない場合が多いです。

2. 情報の品質

オンラインサロン内の情報は、必ずしも正確かつ有益であるとは限りません。

結果: 未確認の情報や偏った意見を鵜呑みにすることで、不適切な投資判断を下すリスクが高まります。

3. エコーチェンバー効果

有料サロン内では同じ意見や情報が繰り返し共有されることがあり、新しい情報や異なる視点が少なくなる傾向があります。

結果: 投資の決断に多角的な視点が取り入れられず、偏っ

た判断を下す可能性が高まります。

4. 主催者の信頼性

有料サロンの主催者の実績や経験、信頼性が不明確な場合があります。

結果: 誤った情報やアドバイスに基づいて投資することで、損失を被る可能性が高まります。

5. 過度な期待

有料サロン参加により、特別な情報や秘訣を得られるとの過度な期待が生まれることがあります。

結果: 実際には大きな利益をもたらす情報は提供されないことも多く、結果として損失を招く可能性があります。

まとめ

仮想通貨のコミュニティは数多くあります。

一般的にはディスコードやテレグラムを使用した無料のコミュニティです。有料のコミュニティであれば、その分有益で分かりやすい情報がまとめられてる可能性が高いと考える人は多いですが、その考えは誤りです。

無料コミュニティは情報が流れる速度が速く、慣れるまでは大変かもしれません。

しかし参加者が互いに利害関係がないため、様々な角度から情報を精査し共有することが可能になります。

逆に有料コミュニティの会員は、お客さま目線であるこ



とが多いです。

情報をもらって当然と考える人も多く、サロン運営者からの情報待ちという状態となってしまいます。議論が起らないコミュニティに価値はありません。

一方向からの情報は主観的な視点となってしまうことも多く、提携先のプロジェクトをおすすめとして紹介されてしまう可能性も高まります。

慣れるまでは大変かもしれませんが、コミュニティ選定の際にはまず無料のコミュニティを探してください。初心者向けのコミュニティから上級者向けのものまで、日本国内でも多くの無料コミュニティがあります。

初心者向けのコミュニティで勉強を始め、知識がついてきた段階で高度な意見が交わされているコミュニティに挑戦してみてもいいでしょうか？

8 国内の販売所を使う

バブルに乗れない残念な人の特徴8つ目は**国内の販売所を使う**です。

その問題点は以下の通りです。

1. 取扱銘柄の少なさ

日本の販売所は、特定の主要な仮想通貨しか取り扱っていないことが多いです。

結果: 新しいトレンドに乗りたい投資家にとっては、投資の選択肢が制限されます。

2. 高い手数料

一部の日本の販売所は、取引手数料や出金手数料が高い場合があります。

結果: 頻繁な取引を行うトレーダーにとっては、コストが積み重なりROIが低下します。

3. 高いスプレッド

販売所で設定されている買値と売値が大きく乖離する場合があります。

結果: 高いスプレッドの影響によって買った時点で大きく損をする可能性が高まります。

4. リアルタイムの情報提供の遅れ

一部の販売所では、取引のボリュームや価格の情報更新が遅延することがあります。

結果: 迅速な取引判断が必要な場面での損失のリスクが高まる可能性があります。

5. 外国取引所との価格差

日本の販売所と外国の取引所とで価格に差が生じることがあります。仮想通貨の世界は米ドル通貨を基準として変化していくため、日本円を基準とした国内取引所では乖離



が起こる可能性があります。

結果: 海外取引所と大きな価格差が生じた場合、買った時点で損をする可能性があります。

6. 規制の影響

日本は仮想通貨に関する規制が厳格であり、突如として新たな規制が施行されることもあります。

結果: 投資家にとっては不確実性が増し、取引の自由度が低下します。

7. 頻繁なメンテナンス

国内販売所では、システム障害やメンテナンスなどでサービスが一時的に停止することがあります。

結果: 取引のチャンスを逃したり、損切をすることができず損失を膨らませる可能性があります。

まとめ

日本の仮想通貨の取引形態には2種類あります。それが仮想通貨取引所と仮想通貨販売所です。それぞれの特徴とメリット・デメリットは以下になります。

仮想通貨取引所

特徴

- ・仮想通貨の買い手と売り手が直接取引を行えます。
- ・実際の取引価格は、市場の供給と需要によって決定されます。

メリット

- ・ 価格の透明性: 取引が公開されるため、実際の市場価格をリアルタイムで確認可能です。
- ・ 取引の柔軟性: 指値注文や成行注文など、取引方法の選択が可能となります。
- ・ 取引の流動性: 大手取引所では高い流動性があり、大量の取引もスムーズに行えます。

デメリット

- ・ セキュリティの懸念: 過去には取引所のハッキング事件が発生しています。
- ・ 複雑な操作: 初心者には取引の方法やインターフェースが難しく感じられる場合があります。
- ・ 取引手数料: 一部の取引所では、取引ごとに手数料がかかります。

仮想通貨販売所

特徴

- ・ 販売所が仮想通貨を直接ユーザーに販売・買取する形式です。
- ・ 価格は販売所が設定し、その価格で直接取引が行われます。

メリット

- ・ シンプルな操作: 販売所のインターフェースはシンプルで、初心者でも容易に購入・販売ができます。
- ・ 固定価格: 価格が販売所によって設定されるため、市場



の変動に左右されにくくなります。

- ・迅速な取引: 直接的な購入・販売のため、すぐに取引を完了させることができます。

デメリット

- ・価格の乖離: 市場価格と販売所の価格には差が生じることがあります。販売所の価格の方が高めに設定される場合がほとんどです。
- ・高い手数料: 一部の販売所では、取引所よりも高い手数料がかかることがあります。

以上の点が主な違いといえます。

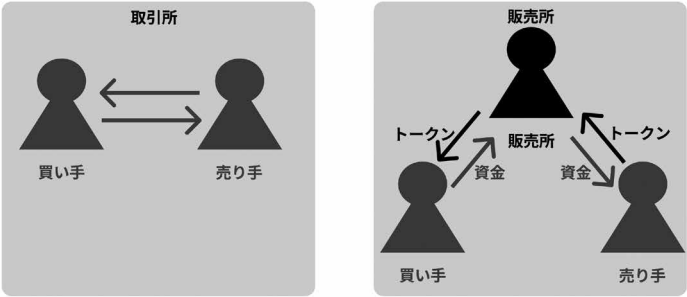
まとめ

一見すると販売所の方がメリットがあるように見えますが、それは大きな間違いです。なぜなら、国内販売所の買値と売値の価格乖離（スプレッド）があまりにも大きすぎるからです。

最近でも\$NIDTというトークンの価格乖離があまりにも大きすぎた結果、購入した瞬間に価値が半分になるという問題が発生しました。

通常時であっても、買値と売値の差が5%～10%程乖離しています。これは買った瞬間に5%～10%の損をすることです。日本の販売所は手数料無料を宣伝し、販売所の方が魅力的に見えるように宣伝しますが、買った瞬間に損をする販売所を使っている時点で投資家失格です。

その点、取引所であれば、オーダーブック形式で売買が可能であるため、市場価格と乖離の少ない状態でトークンを購入することが可能です。操作方法が販売所と比べ、操作がほんの少し難しいかもしれませんが、必ず取引所を使用してください。



	取引所	販売所
スプレッド	高額	少額
取引手数料	無料または少額	高額
操作性	易	難

9 海外取引所を使わない

バブルに乗れない残念な人の特徴9つ目は“海外取引所を使わない”です。

その問題点は以下の通りです。



1. 取扱銘柄の限定性

多くの国内取引所は、主要な仮想通貨と一部のマイナーなアルトコインのみを取り扱うものばかりです。

結果: 新興プロジェクトのトークンや、海外取引所でしか買えないトークンの投資機会を逃してしまう可能性があります。

2. 投資の多様性の欠如

海外取引所は、特定の金融商品や先物取引、オプション取引といった多様な投資商品を提供していることがあります。

結果: 投資戦略の幅が制約されます。

3. 情報の遅れ

主要な市場の動きや新しいトレンドは、海外市場で先行して表れることが多くあります。

結果: 海外の取引所を利用していないと、市場の早期の動向をキャッチするのが難しくなります。

4. アービトラージの機会損失

仮想通貨の価格は取引所ごとに異なるため、価格差を利用した取引(アービトラージ)の機会を逃すことにつながります。

結果: 海外取引所を使用しないことで、利益を上げるチャンス逃してしまいます。

5. 取引手数料の違い

日本の国内取引所と大手海外取引所では取引高が大きく違います。その分、国内取引所は大手の海外取引所よりも高額な各種手数料が設定されています。

結果:取引の度に無駄な手数料を払うことになり、ROIが低下します。

6. リアルタイムの情報共有の欠如

世界中のトレーダーとの情報共有やコピートレードは、市場の方向性を理解するのに有益です。

結果:国内取引所のみ利用では、国際的な市場の流れや情報を得るのが困難です。

7. 規制のリスク分散

日本国内の取引所が規制や政策の影響を受けた場合、投資資産に影響が及ぶ可能性があります。

結果:複数の国の取引所を利用することで、そのリスクを分散することができます。

まとめ

海外取引所を使うことは、本来日本人には推奨されていません。しかし、日本の取引所とは比べられないメリットを有しています。

まず当然のことながら仮想通貨市場のメインは海外です。取扱銘柄が極めて限られる国内の仮想通貨取引所を使うよ



りも海外の取引所を使う方が、組み立てられる戦略の幅が大きく広がります。

さらに海外取引所の方が圧倒的に手数料が低いです。大きな資金が集中している海外の取引所の方がその分低い手数料で運営が可能だからです。FTXの破産事件で忌避感を持っている方もいらっしゃると思いますが、投資戦略として複数の海外取引所を利用することでリスクを分散した上で、メリットを享受することが可能になります。

そのほかにも海外取引所を使用するメリットにはドル建てでの価格変化を体に馴染ませることができます。

仮想通貨は日本を中心に回っているわけではありません。仮想通貨の価格判断をする際には必ず世界通貨である、ドルが意識されます。円建てで相場を認識していると、市場と自身の相場観が大きく乖離することにつながります。

ドル円相場が150円を超え、草コインのように乱高下する日本円を基準に考えることは百害あって一利なしです。

10 自分のウォレットを持っていない

バブルに乗れない残念な人の特徴10個目は“**自分のウォレットを持っていない**”です。

その問題点は以下の通りです。

1. セキュリティリスク

ウォレットを持たない場合、多くの人が取引所に仮想通貨を保管しています。しかし、大きな資金が集中している取引所はハッキングのターゲットとして狙われる場合があります。

結果:取引所に保管している仮想通貨が盗まれてしまったり、資金を取り戻せなくなるリスクがあります。

2. アクセス権の不足

自分のウォレットを持っていないと、仮想通貨の所有権や管理権が制約されます。

結果:仮想通貨の本質的な利点である「自分のお金を自分で管理する」ことができなくなります。

3. 流動性の制約

特定の取引所やプラットフォームに依存すると、その取引所がサービスを一時停止したり、問題が生じた際に資金を移動させることが難しくなります。

結果:緊急時に資金を移動または利用できない可能性があります。

4. 規制やポリシーの変更へのリスク

取引所は国や地域の規制に従わなければならない、突然のポリシー変更や規制強化が行われることがあります。

結果:アカウントの凍結や資金の引き出し制限が突然発生



する可能性があります。

5. 中央集権的なリスク

ウォレットを持たずに取引所に依存することは、中央集権的な体制に頼ることとなります。

結果: 仮想通貨の分散型の利点を完全に享受することができません。

6. 手数料の問題

自分のウォレットを持たないと、取引所間の移動や取引の際に余分な手数料がかかることがあります。

結果: 積極的な取引を行う場合、コストが増加しROIが悪化します。

まとめ

仮想通貨投資家としては、メタマスクなどに代表されるウォレットは持っておきましょう。

ウォレットとは仮想通貨を保管・管理するためのツールやサービスです。

ウォレットで資金管理を行うことでセキュリティを他者に依存することなく、自身で把握することができます。

また、仮想通貨取引所のアカウントを持っていれば、有名どころの仮想通貨を購入することはできます。

しかし、それだけでは参加できないICO(イニシャルコインオフアリング)、INO(イニシャルNFTオフアリン

グ)、IDO(イニシャルDEXオファリング)というものが存在します。

これらは各自のウォレットから新規で発行されるコイン、トークン、NFTを直接購入することができます。バブルが始まったときに最も特徴的なことは新規で発行されるトークンが上場直後に急騰することです。参加すれば5倍10倍のセールが毎週のように開催されます。

ウォレットを持っていない時点でそれらのセールに参加できないことを考えると、多大なる機会損失を生み出すことになります。

	ウォレット	CEX
IDOへの参加	○	×
セキュリティ	○	△
規制リスク	○	×
操作性	×	○

11 ホワイトペーパーを読まない

バブルに乗れない残念な人の特徴11個目は“ホワイトペーパーを読まない”です。

その問題点は以下の通りです。



1. プロジェクトの理解の不足

ホワイトペーパーは、プロジェクトの核心的な情報源です。これを読まずに投資すると、プロジェクトの真の目的や価値を理解せずに資金を投じることになります。

結果: 投資判断が不適切となり、失敗するリスクが高まります。

2. 技術的背景の不明

ブロックチェーン技術は複雑であり、その技術的な特性や実装の方法はプロジェクトごとに異なります。ホワイトペーパーを読むことで、その技術的な詳細を知ることができます。

結果: 技術的なリスクを評価できず、技術的な問題に直面した際に対応が困難になる可能性があります。

3. 運用やガバナンスの不明

ホワイトペーパーは、プロジェクトの運用やガバナンス構造も詳細に説明しています。これらの情報を知らないこと、プロジェクトの進行方向や意思決定プロセスが分からなくなります。

結果: 投資家としての権益が不明確になり、意思決定に影響を及ぼせなくなる可能性があります。

4. 詐欺や低品質のプロジェクトの識別の困難

ホワイトペーパーをしっかりと読むことで、プロジェク

トの品質や真摯さを判断することができます。質の低いホワイトペーパーは、それ自体が警告信号となることが多いです。

結果: 詐欺プロジェクトや不十分に準備されたプロジェクトへの投資のリスクが増加します。

5. 将来のロードマップの不明

ホワイトペーパーは通常、プロジェクトの将来的な計画や展望も示しています。これを知らないと、プロジェクトの長期的な成功の可能性を適切に評価するのは困難です。

結果: 短期的な利益の追求だけになりがちで、長期的な成功を見逃す可能性が高まります。

まとめ

ホワイトペーパーはプロジェクトで最も信頼性の高い公式文書です。すべてのプロジェクトのホワイトペーパーを読むことは時間的にも不可能ですが、最低限自分が投資するプロジェクトは読むようにしましょう。

特に注目して読んでもらいたい部分が各プロジェクトのトークノミクスです。ここでは少しトークノミクスで注意していただきたい部分について抜粋していきます。

トークンの排出

トークンの排出スケジュールは最も重要と言っても過言ではありません。



当然ですが、トークンが市場に排出されれば排出されるほど各トークンの価値は希釈されて価格の下落が起こります。すでに発行されているトークンの量が多ければ多いほど、トークン価格を上昇させるために必要な資金が多くなります。だからこそ、バブル期に新規で発行されるトークンは市場流通量が少なく、価格上昇が起こりやすいとも言えます。

トークンの割り当て

トークンの割り当ても排出と同様重要な項目の一つです。VC（ベンチャーキャピタル）などの大口投資家、一般投資家、マーケティング、運営チーム、プロジェクトのエコシステムなど、それぞれに割り当てられているトークンの量を確認することができます。

トークンの割り当てとして注視してほしいことは、売り圧として市場への影響があるかどうかです。売り圧とはトークンのロックが解除されいつでも売ることができる状態になっているトークン量を指します。

まず、売り圧としてトークン価格下落要因になるのが、大口投資家、一般投資家、マーケティングです。これらに割り当てられた分は間違いなく売り圧として機能します。

続いて、売り圧にならない分はプロジェクトのエコシステムです。

これらは売り圧として機能するのではなく、プロジェク

トの運営に必要な分が使用され続けていくので売り圧として考えなくても大丈夫です。

注意点をあげるとするとDeFiやGameFiなどのファインانس系プロジェクトの場合は、ファームिंगやゲームプレイ報酬によって市場に排出される分が含まれていることです。その場合は毎日排出が起こっているので、一気に売り圧がかかるのではなく徐々に売られていくので緩やかにトークン価値の希釈が起こり続けます。

最後にケースバイケースによって売り圧となるものが、チーム割り当て分です。

当然のことながら仮想通貨プロジェクトの運営チームも最終的な目標は利益を出すことです。売った方が得になる場合と、保持していた方が得になる場合とで対応方法は異なってきます。

売った方が利益になる場合というのはトークンそのものにマネタイズとしての機能がない場合です。トークンのステーキングなどによってプロジェクトが生んだ利益を報酬として獲得する機能がない場合、そのトークンに本質的な価値はないため運営チームに割り当てられた分のトークンは売却されるリスクが高くなります。

保持していた方が得になる場合というのは逆にトークン保持によってマネタイズ機能を有している場合です。

注意点としてはトークン価格が上昇しプロジェクトの生み出す利益を大きく超えて価格上昇が起こった場合、運営



チーム分のトークンを売却する可能性があります。

トークン割り当て量から売り圧となるトークン量を計算することでトークンの上がりやすさ、下がりやすさを予測することができます。バブルに買うべきトークンは、市場流通量が少なく、売り圧の少ないトークンです。

ホワイトペーパーをしっかりと理解することは難しいですが、GameFi、DeFi、NFTとそれぞれの分野毎に一定数を読み込むことでプロジェクトの価値を理解できるようになります。

12 Scanの見方が分からない

バブルに乗れない残念な人の特徴12個目は“Scanの見方が分からない”です。その問題点は以下の通りです。

1. トランザクションの確認ができない

自身のトランザクションのステータスや詳細を確認することができません。

結果: トランザクションが確認されているのか、失敗しているのか、またはまだペンディング中であるのか不明確になり、不安や混乱を招く可能性があります。

2. スマートコントラクトの詳細を知ることができない

トークンやその他のプロジェクトに投資する際、関連するスマートコントラクトの詳細やソースコードを確認することができません。

結果: 詐欺や不正なコントラクトに投資するリスクが増加します。

3. アドレスのバランスやトランザクション履歴が確認できない

アドレスの現在のバランスや過去のトランザクション履歴を知ることができません。

結果: 正確な資産の管理や履歴の追跡が難しくなります。

4. トークンの送受信に関する問題

Scanを使ってトークンの送受信情報を適切に確認できない場合、送金先アドレスの正確性や送金額の確認ができません。

結果: トークンの誤送金や失われるリスクが増えます。

5. 市場の透明性の欠如

Etherscanなどのツールを使用して市場動向を把握することができないと、市場の健全性や特定のトークンの動向についての情報が得られません。

結果: 適切な投資判断が困難になる可能性があります。



まとめ

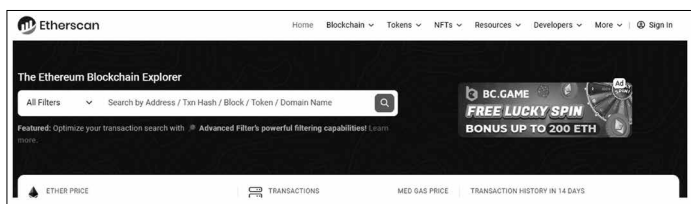
各チェーンのインフラとしてScanという機能があります。Ethereumブロックチェーンで使用可能なEtherscanは、Ethereumブロックチェーンの情報を検索・閲覧することができます。これによって各ユーザーは自身の取引履歴の確認ができるだけでなく、他人の取引履歴を追跡することも可能になります。他人の取引履歴を追跡できるということは利益を出すことのできる人間のコピートレードが可能になるということです。コピートレードしたい人のウォレットアドレスを割り出す作業は慣れも必要ですがXの活動履歴などから追跡することができます。

また、Scanを使用して各プロジェクトのトランザクションの履歴を追跡することで怪しいプロジェクトの割り出しや、トークンの保持数、そのトークンを保有している人の数など、投資に役立つ情報を取得することが可能になります。



ここからは少しEthereumの見方について紹介します。
Etherscanの見方は以下の通りとなります。

トップページ



上記がEtherscanのトップページです。

Searchの欄にAddress、TxHash、Block Height、Tokenを入力することでトランザクションの詳細を確認することができます。

Address: メタマスクなどのウォレットアドレスを検索してそのウォレットの過去の取引内容を確認することができます。

TxHash: ブロックチェーンではすべての取引でTxHashという取引ナンバーが生成されます。TxHashを検索することで取引内容の詳細を確認することができます。

Block Height: ブロックチェーンでは複数のトランザクションをまとめて処理するために複数の取引履歴が格納されたブロックを生成します。Blocknumberを検索することでブロック内に格納されているトランザクションを一覧で表示できます。



Token:USDTやUSDCといった各トークンの状況を検索することができます。

トークンを検索する際にはティッカー(ETH、BTCなどの英数字のトークン表記)で検索することもできますが、偽物が複数存在するため、コントラクトアドレスという0xから始まる文字列から検索することをおすすめします。

例：ウォレットアドレス (0x00000000000000000000000000000000)

Address: 0x00000000000000000000000000000000

Featured: Wallet-to-wallet instant messaging via [Blockchain Chat!](#)

This address is not owned by any user, is often associated with token burn & mint/genesis events and used as a generic null address

Null: 0x000...000 [# Blocked](#) [# Burn](#) [# Genesis](#) [More](#)

Overview

ETH BALANCE
11,798.510765623729075345 ETH

ETH VALUE
\$21,124,287.67 (@ \$1,796.51/ETH)

TOKEN HOLDINGS
>\$156,829,230.02 (~201 Tokens)

More Info

PRIVATE NAME TAGS
[+ Add](#)

MINED:
2,972 Blocks and 2 Uncles

NO TXNS SENT FROM THIS ADDRESS

Multi Chain

MULTICHAIN ADDRESSES
29 addresses found via [Blockscan](#)

Traders are buying meme tokens - get 12% off with this stake to earn [Buy Stake now!](#)

Transactions Internal Transactions Token Transfers (ERC-20) NFT Transfers Produced Blocks Produced Uncles Analytics Comments

17 Latest 25 from a total of 116,134 transactions (+17 Pending) [Advanced Filter](#)

Transaction Hash	Method	Block	Age	From	To	Value	Tax Fee
0x487545bb8c2d6d...	Grant Premia...	(pending)	1 hr 10 mins ago	0x8Df601...b403Ab8b	Null: 0x000...000	0 ETH	(Pending)
0x54b6f4a73d9053a99...	Ema GE Gz XL	(pending)	2 days 15 hrs ago	0x14267f...588cC653	Null: 0x000...000	0 ETH	(Pending)

上記はウォレットアドレス0x00の内容です。

Etherscanのウォレットアドレスの見方は以下の通りです。

Transaction Hash: このウォレットアドレスが過去に行った各取引のTransaction Hashの一覧が表示されています。各Transaction Hashをクリックすることで取引詳細を確認することができます。

Method: 取引の内容です。主に知ってほしいMethodは以下の通りです。

Transfer: トークンの送信、受信を表しています

Sell: トークンを売った取引を表しています

Buy: トークンを買った取引を表しています

Approve: 当該ウォレット内のトークンを操作する権限を承認したことを表しています

From: 取引でトークンの送受信での送信元を表しています

To: 取引でトークンの送受信での送信先を表しています

Value: 送受信されたETHの量を表しています

今回は一例としてEtherscanの最も初歩的な内容を解説しました。Etherscanにはこのほかにも多くの機能があります。使いこなすことができれば投資において多くのメリットがありますのでぜひ練習してみてください。

第 3 章

バブルに乗って 大儲けした現人神10人



この章では前回、前々回のバブルで資産を大きく増やした人達の実例について紹介していきます。

過去の立ち回りを参考にすることで億るために必要な知識を先人達から吸収していきましょう。

1 ICOバブルの成功者

まず最初に紹介するのはICOバブルの成功者Mさんです。

様々なトークンがICOで販売される中、Mさんが目をつけたのはADA (Cardano) というコインでした。

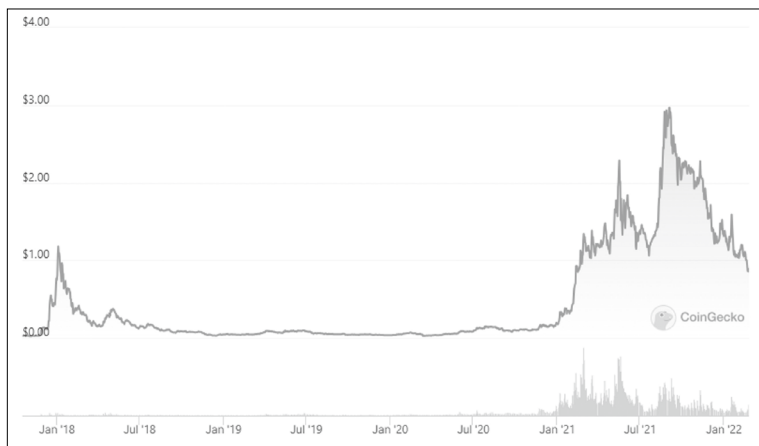
ADAはEthereumの共同創設者の一人であるチャールズ・ホプキンソンによって開発が始められました。次世代のスマートコントラクトプラットフォームとして打ち出されたコインです。

ADAの販売は4回のセールで行われ、最初のセールは2015年9月に始まり、最後のセールは2017年1月に終わりました。総供給450億のうち、約260億がICO中に販売されました。すべてのセールは合計で約6200万ドル調達され、単一のADAトークンの平均価格は0.0024ドルでした。セール終了後、ADAの価格は\$0.02ドルまで上昇し、この時点でICO参加者は約10倍の利益を出していました。ADAトークンはその後も上昇を続け、2021年の仮想通貨バブルの時点で2.5ドルを超えるまで価格は上昇しました。



Mさんは最初のセールで15000ドル分のADAトークンを購入し、最終的には1600万ドル、日本円で約23億円の総資産を築きました。

【\$ADAチャート】



Mさんはもともと投資家ではなく、心理カウンセラーとして働くごく一般的な主婦でした。

人と違うところがあるとすれば幼少期から母親の影響で新しいものに接する機会が人より多くあったということです。新しく、リスクのある分野に忌避感なく投資することができた要因には、Mさんの生い立ちが大きく関係しています。

すでにBitcoinがマイニングを開始してから約15年が経ちましたが、まだまだ仮想通貨に関わる技術進歩は爆発的な勢いで続いています。

DeFi領域では資金効率をよくするために、NFT領域では新たな規格が生まれ、新たなブロックチェーンが立ち上がり、GameFi領域ではゲームシステムやエコシステムの研究が進み続けています。

私たち仮想通貨投資家はMさんのように新たな技術を学び、リスクを含めて大胆に投資することが必要となります。

2 NFTが気づけば5億

続いて紹介するのはNFT売買で資産を築いたSさんです。Sさんが投資したのはCryptoPunksという一番最初に生み出されたNFTです。

CryptoPunksはLarva Labsによって生み出された、10,000のユニークな24x24ピクセルアートです。

Ethereumブロックチェーン上のNFTとして存在しています。





SさんはもともとETHの初期投資家でした。

CryptoPunksはETHのコミュニティメンバー達に無料で配布されたアートプロジェクトだったので、Sさんも無料でCryptoPunksをもらえた1人です。

最初は誰も注目していなかったNFTという分野ですが、一点ものの証明が可能であるという点、そして従来のアート作品に比べて流動的な売買が可能である点が周知されていくにつれ、価値は上昇し続けました。

その中でも最も高額で売却されたCryptoPunkは、エイリアンタイプのPunksです。

約7600 ETH (Ethereum) で取引され、これは現在の価格に換算すると約20億円という凄まじいものでした。

Sさんはもともと無料で配布されたものということもあり、大して期待していなかったのですが、最終的に385万ドルでCryptoPunksを売り、日本円で約5億円を稼ぎました。

CryptoPunks以外にも爆発的に価値を伸ばしたプロジェクトは複数存在します。

それらに共通する点は新しい技術を最も早く取り込んでいるか、アートとして価値のあるプロジェクトであるかの2点です。

NFTの技術とは

新しい技術とはERC (Ethereum Request for Comments) のことを指します。

ERCとはEthereumブロックチェーンにおけるトークンの規格です。日々新たなトークン規格が提案され、開発が進み続けています。

ここからは知っておいてほしいERC規格について簡単に解説します。

ERC-20

目的: トークンの作成と管理のための標準インターフェースです。

特性:

transfer: トークンを送金します。

balanceOf: 特定のアドレスのトークン残高を取得します。

approve & transferFrom: 他のアドレスにトークンを移動する許可を与え、移動します。これにより、Ethereum上でのトークンの作成と取引が簡単になりました。

ERC-20規格とは主にETHのトークンを作成するために用いられる規格です。逆にERC-20以外の規格はNFTを作成するための規格と考えてもらって大丈夫です。

ERC-721

目的: 非代替性トークン (NFT) の作成と管理のための標



準インターフェースです。

特性:各トークンはユニークなIDを割り振り可能です。

ownerOf: トークンの所有者を確認します。transferFrom, approve, safeTransferFromなど、所有権の移転や承認に関するメソッドが含まれます。

ERC-721規格とはNFT作成のために作られた標準的な規格です。具体的なプロジェクトとしては先ほど紹介したCryptoPunksやBAYC(Bored Ape Yacht Club)などが該当します。

NFT作成の骨子となる規格で、ERC-20と異なる点は各トークン毎にIDを割り振り可能であるということです。

ERC-20であるETHはIDを割り振りできないため、過去に誰が所有していたかを確認することはできません。

しかし、ERC-721規格のNFTであれば、過去の所有者や、いくらで売買が行われてきたかを確認することができます。この機能によってNFTは一点ものである証明が可能となります。

ERC-1155

目的: 複数のNFTを1つのスマートコントラクトで管理できるトークン規格です。

特性: 代替可能なトークン(FT)と非代替可能なトークン(NFT)を同じコントラクト内で扱うことができます。効率的なガスの節約など、多くの最適化が可能です。

ERC-1155規格はNFTとFTの中間的な機能を備えた規格です。ERC-721規格は一点ものの証明という点では革新的でしたが、売買や送信・受信のためには1個ずつトランザクションの処理を行わないといけない点が不便でした。

この点を解決したのがERC-1155です。複数のNFTを同時に1つのトランザクションで処理が可能となったことで特にGameFiの可能性を広げた規格です。

例えば、ゲーム内アセットのポジションなど、複数売買前提のアイテムをNFT化してマーケットプレイスで取引可能にした場合、ERC-721規格では1個ずつしか取引できないのでユーザーに対して大きな負担となります。しかしERC-1155規格では複数を同時に売買できるのでWeb2ゲームと同様のUIを実現することができます。

ERC-1155規格を最初に採用したNFTプロジェクトで価値を大きく上昇させたものにフロアAZUKIがあります。AZUKIは2021年に1枚1ETHでセールが開始されると1か月でフロアプライスが20倍以上に上昇したプロジェクトです。

このほかにも2023年10月までにはERC-5979が承認されるなど、NFTの規格も進化し続けています。NFTで爆発的な利益を取りたいという方は新しい規格について勉強してみتهいかがでしょうか？



	目的	使用例
ERC20	ファンジブルトークン作成	各種トークン
ERC721	NFT作成	1点物のNFT
ERC1155	複数のNFTを作成	BCGの消費アイテムなどの 複数使用するNFT

アートとしてのNFTとは

最初にお伝えしますとアートとして価値のあるNFTに投資することは至難の業です。

なぜなら、そこに必要な知識は仮想通貨に対する知識ではなく、アートへの投資の知識だからです。アートという分野は数千年の積み重ねがあり、誕生から15年程度の仮想通貨に必要な知識よりも多くの知識を必要とします。

一時期はNFTアートというだけで値が付く時期もありましたが、すでに過去の話です。これからはアート系NFTはNFTというだけではなく、アート性があるかが重要になってきます。すでにアートに対する深い造詣のある方以外は手を出してはいけない分野です。

一例としてアートとして成功したNFTについて紹介します。

アート系NFTの成功プロジェクト Goblintown

Goblintownは2022年に注目を集めたNFTプロジェ

クトです。ダークで風変わりな雰囲気の特徴とし、ゴブリンを中心に独特なアートスタイルを築いていました。

このプロジェクトはユーモアを交えたマーケティングによって活発なファンコミュニティを生み出し、無料で配布していたにもかかわらず、最盛期には10 ETH近いフロア価格まで価値を上昇させました。

Goblintownが注目された最も大きな要因はNFTのコントラクトにALL DELETEというすべてのNFTを消去するコードが存在していたことです。

その利那性と独自性が市場の投機家達から注目を浴び、アートプロジェクトとしてトップクラスの成功を収めました。

アート系NFTは新しい価値観を形成できたプロジェクトが成功します。

つまり二番煎じでは意味がないのです。

過去の例から分析できないアート系NFTというものは投資の主戦場にするにはリスクが高すぎます。





3 DeFiバブルで無限の利回り

仮想通貨投資の成功者3人目はGさんです。

GさんはDeFi、そのなかでもPancakeSwapで大きな利益を出した方です。PancakeSwapについてDEX、DeFiの概要を交えて簡単に解説します。

DEX (Decentralized Exchange) とは

DEXはDeFiの一部である分散型の取引所です。中央集権的な管理者や中間者が存在せず、取引はスマートコントラクトを介して直接ユーザー間で行われます。

主な特徴

Automated Market Maker (AMM)

PancakeSwapは、従来のオーダーブック方式ではなく、AMMモデルを採用しています。これにより、ユーザーは流動性プールにトークンを提供し、取引を容易に行うことができます。

流動性プール

ユーザーは特定のトークンペアの流動性を提供することができ、流動性提供者として取引手数料を受け取ることができます。

Yield Farming

ユーザーがトークンをステーキングして報酬を受け取ることができる機能です。特に\$CAKEトークンをステーキングすることでさらなる\$CAKEを獲得することができます。

DeFi (Decentralized Finance) とは

DeFiは分散型金融とも呼ばれ、伝統的な金融業界のサービスや製品をブロックチェーン技術とスマートコントラクトを利用して提供する新しいエコシステムを指します。DeFiの目的は、中央機関や仲介者を排除し、サービスをより透明性高く効率的に、そして誰でもアクセス可能な形で提供することです。

PancakeSwapとは

PancakeSwapはBSC(Binance Smart Chain) 上で稼働するDEXの一つであり、DeFiエコシステムの中心的なプロジェクトです。独自通貨として\$CAKEが採用され、ガバナンスやステーキング報酬の取得などの用途があります。

Gさんの成功はDeFiを選んで挑戦したこともあります。DEXの選択に成功したことも大きな要因です。

実はPancakeSwapは一番最初に登場したDEXではありません。一番初めにDEXおよびDeFiの概念を作ったのはUniswapというEthereumブロックチェーンのプロジェクトでした。もちろんUniswapに初期から投資できた方々も



大きな利益を出すことができましたが、PancakeSwapの初期参入者の利益には遠く及びません。

PancakeSwapが大きく成功した要因は主に2つです。

1つはBSC(バイナンススマートチェーン)、現在のBNB(ビルドアンドビルド)チェーンというブロックチェーンを選択したからです。

当時のEthereumブロックチェーンは、大きな需要から1回のトランザクションに発生する料金が50ドル～100ドルと高額なガス代がかかっていました。

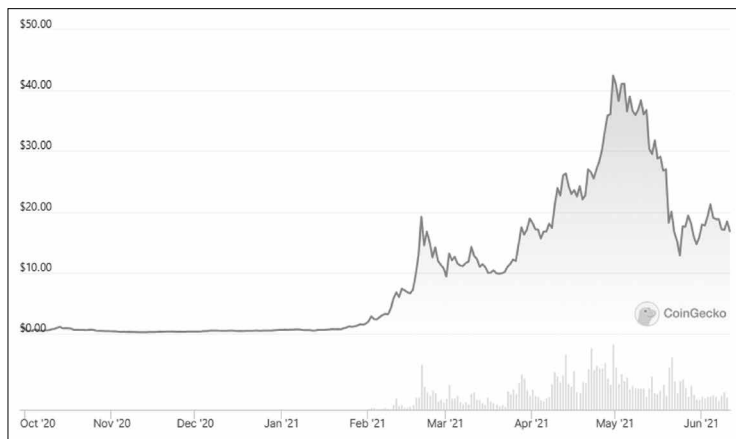
そういった背景から、複数回の取引をこなすDeFiの領域においてBSCチェーンを選択したプロジェクトが注目を集めていた背景があります。

2つ目はユーザーに直観的で分かりやすいUIを提供していたことにあります。

それまでのDeFiは専門的で、操作方法すら分からないものという印象がありました。しかしPancakeSwapの登場によってDEXの仕組みを完全に理解できていない素人でも直観的な操作が可能となるUIを作り上げたことで、多くの新規参入者を呼び込むことに成功しました。

次ページのチャートのようにPancakeSwapのトークンである\$Cakeは初期の0.4ドルから40ドルを超えるまで大きく値上がりしました。

【\$CAKEチャート】



トークンの値上がりもさることながらDeFiの真の価値は複利で運用が可能な点にあります。

PancakeSwapの独自トークンである\$CakeとBSCチェーンの基軸通貨である\$BNBをペアにしてFarmingすることで初期では年間利率1万%以上、安定した後も年間利率300%で運用が可能でした。

\$Cake価格が0.4ドルから40ドル以上にまで値上がりし、その上1か月のFarmingで\$Cakeの保有量は増え続けるバブルが続いた結果、Gさんの初期投資額40万円は最終的に2億円近くまで膨れ上がりました。

これがDeFiプロジェクトが爆発した時の力です。単純な価格上昇以外にも持っているトークンの保有数を運用で増やせる点は仮想通貨プロジェクトのなかで唯一の強みです。



4 忘れていたBNB

4人目はBNBを放置していたら大儲けしたGさんです。

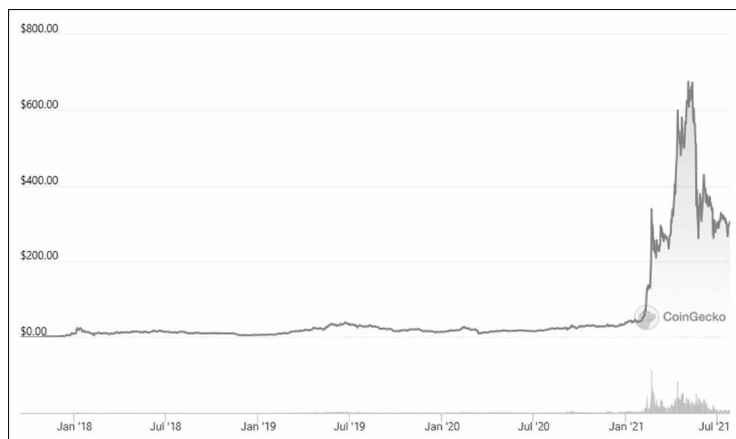
Gさんはもともと株式のトレーダーです。Bitcoinのポラティリティの大きさに惹かれて仮想通貨投資を開始しました。取引のために世界最大の仮想通貨取引所であるBinanceの口座を開設し、仮想通貨取引の世界に参入します。最初は単純に取引を行っていたGさんですが、BinanceでBNBという謎のコインのICOが実施されることを知りました。いまでこそ有名となった\$BNBですが、実装された当初のユーティリティはBinance上で手数料支払いに使用すると各種手数料が半額になるというものでした。

Bさんは当時Binanceをメインの取引所に使用するつもりで2017年のICOで1000ドル分のBNBを購入しました。

Bさんに転機が訪れたのは2020年です。2020年の9月にBinanceはBSC（バイナンススマートチェーン）を稼働開始しました。前節でも述べたようにBSCチェーンは急速に発展しました。

それはEthereumブロックチェーンと比べて大幅に手数料が安いこと、トランザクションスピードが速いこと、などユーザビリティの優れたブロックチェーンだったからです。その結果、ICOで0.1ドルだったBNBは2021年のバブルで600ドルを超える上昇を見せました。

【\$BNBチャート】



Bさんは結果として6000倍以上のリターンを得られる投資に成功したのです。

さらに前節のPancakeSwapと組み合わせて投資をしていたおかげで1万倍を超える投資リターンに成功しています。

ここで考えてみたいことは、Bさんは投資家として優れていたから1万倍以上のリターンを得られたのでしょうか？ ここで記述されている内容のみだと、運が良かっただけに見えるでしょう。

しかし、Bさんが真に優れていたことはポートフォリオの組み方です。

BさんはICOブームの段階で、**数多くの銘柄に少額ずつ投資するという基本戦略を地道に実行**してきました。当時のBさんが仮想通貨投資に使える金額はおよそ2万5000



ドル。その資金を3種類のロットに分割し、期待度が高い物から2000ドル、1500ドル、1000ドルずつで投資するという戦略を実行し続けてきました。

結果として価値が0になってしまったり、大きく値下がりしてしまった通貨も存在します。しかし、BNBのように大きな値上がりをとることができるトークンを保有することにも成功しました。

私たちがBさんの投資手法から学ばなければならないことは少額ずつ複数の銘柄に投資するということです。投資本であれば必ず書いてある基本的な内容ではありますが、仮想通貨の世界では株式投資よりもその傾向が顕著です。

仮想通貨は跳ねるときは異常な倍率で跳ねることがあります。逆に価値が0になってしまうことも決して少なくありません。

そのため私たちは数多くの銘柄に投資し、何か1つ大きく上昇する銘柄をつかむことが必要不可欠なのです。

5 | ゲームしていたら2億円

5人目はゲームし続けていたら資産総額が2億円を超えてしまったYさんです。

YさんがやったゲームはAxie InfinityというBCG(ブロックチェーンゲーム)です。Axie Infinity通称アクシーについて少し解説していきます。



1. Axie Infinityとは？

Axie Infinityは、ブロックチェーン技術を基盤とした、ペットを戦わせるオンラインゲームです。このゲームのキャラクターである「アクシー」はNFT(非代替可能トークン)として所有され、それぞれが独自のステータスを持つため、外見や能力が異なります。

2. ゲームの特徴

NFT

ゲーム内のアイテムやキャラクターはNFTとしてEthereumブロックチェーン上に存在し、プレイヤーが実際の所有権を持ちます。

Play to Earn

Axie Infinityは「Play to Earn」モデルを採用しています。これは、ゲームをプレイすることで実際の収入を得



られるシステムを指します。例えば、バトルに勝利することや、アクシーを繁殖(MINT)させることで得られるアクシー NFTを他のプレイヤーに売却することが可能です。

マーケット

ゲーム内にはアクシー NFTの売買や土地の取引などが行われるマーケットプレイスが存在します。

スカラー

ゲーム内での雇用関係(雇用主、労働者)を築くことが可能です。一部の富裕層が所有しているアクシー NFTを労働者に貸し出します。東南アジアなどの発展途上国では、労働者としてアクシーをプレイすることで貰える報酬が、通常の日雇いの収入よりも高くなる場合があります、爆発的にゲーム人口を増やしました。

3. トークン

Axie Infinityには主に2つのネイティブトークンが存在します。

AXS (Axie Infinity Shards)

ゲームのガバナンストークンであり、ゲームの方向性に投票する権利や特定の活動からの報酬として得られます。AXSは外部の仮想通貨取引所で取引されています。

SLP (Smooth Love Potion)

アクシーのMINTや購入に必要なトークンです。バトルを勝利することで得られるほか、外部の取引所で購入・売却することも可能です。

アクシーは現在のBCGの礎を築いたゲームです。

その最たる特徴として、スカラーシステムがあります。

スカラーは雇用主と労働者の関係を築くことです。雇用主はアクシーをMINT、購入することでアクシー NFT を所有し労働者に貸し出し、ゲームをプレイしてもらい報酬を分配します。逆に労働者は雇用主からアクシー NFT を借りてゲームをプレイすることで発生する報酬の一部を雇用主からもらうことで収入とします。

アクシーの全盛期ではフィリピンなどの発展途上国の方々が、労働者としてゲームに参入してきました。それは現地で働いて得られる報酬と比べてアクシーをプレイして報酬を分配してもらう方が大幅に効率が良かったからです。アクシーのスカラー契約では実際に契約書を交わし、1日の最低プレイ時間を決定するなど、現実世界での契約さながらの働き方を行っていました。

アクシー1体の金額が3000ドルを超えることもあり労働者にとっては参入障壁が高い、雇用主にとっては数百、数千体のアクシー NFT を所有しているが、自分だけでは1日中プレイしても時間が足りない、双方の需要が合わさったことでアクシーのスカラーシステムはうまく機能しました。



またこのスカラーシステムによって大口の参入が容易になったことでゲームに大きな資金を流入させることができました。これらの循環がうまく機能したことがアクシーが大きな成功を収めた理由です。

さらにアクシーというゲームの奥深い点は複数の稼ぎ方がある点です。

スカラー雇用者としてレバレッジを効かせて稼ぐこと、スカラー労働者として資金に余裕のない人でも稼げること、アクシー NFTをMINTし販売することで稼ぐことなど、様々な立場の人が稼ぐことが可能でした。

今回取り上げているYさんはアクシー NFTをMINTすることで大きな利益を上げた方です。

アクシーのMINTシステムは2体のアクシー NFTから新たなアクシー NFT1体を生み出すことができます。

他のBCGでもNFTをMINTする際に2体のNFTが必要となることがほとんどですが、アクシーでは他のBCGとは大きく異なる点があります。それはMINT元となる2体のアクシー NFTの特性を引き継ぐことです。

Yさん以外にもアクシー NFTのMINTで利益を得ようとする人はたくさんいましたが、最終的な利益はYさんがダントツでした。

それはYさんが**MINT時の特性引き継ぎの仕様を理解し、独自に研究を進めていたことが要因**です。

Yさんはアクシーのゲームシステムを理解し、その時に

最も高く売れる特性を引き継いだアクシー NFTをMINTできるように研究していました。

フロア価格が3000ドルの時でも研究を続けたYさんのアクシー NFTは1万ドル以上の価格で売却されることも少なくなく、他の人に比べて大きく利益を出すことに成功したのです。

BCGへの投資はその他の仮想通貨プロジェクトへの投資に比べて難易度が高いです。

なぜなら仮想通貨、DeFi、NFTへの投資は一度購入してしまえば、いつ利確するのかを意識するだけです。

しかしBCGはエコシステム以外にもゲームというものを実質的に理解する必要があります。さらにゲームの場合は、運営がいつ仕様を変更してゲームバランスの調整をするか分かりません。常に情報を追いつけ、その時に最適な戦略を取り続ける必要があります。

そんな面倒なことはしたくないと思った方、ちょっと待ってください。

だからこそ資金力の少ない人にもチャンスがあるのです。BCG以外の仮想通貨プロジェクトにおいて利益は投資額に依存します。しかし、BCGは少し違います。ゲームをプレイしなければ報酬を生み出せない仕様上、利益に偏りが生まれるのです。

資金が少ないプレイヤーでも環境分析をしっかりと行い、臨機応変に対応を変えられるプレイヤーこそが最も利益を上げることができるのです。



6 Bitcoinマイニング工場長

6人目はBitcoinマイニングで大きな利益を出したOさんです。Bitcoinは知っているけどマイニングとはどのようなものか知らない人も多いと思いますので解説していきます。

1. Bitcoinマイニングとは？

Bitcoinマイニングは、トランザクションの確認や新しいBitcoinの発行を行うためのプロセスです。マイニングは高度な計算能力を持つコンピューターを使用して、特定の数学的な問題を解決することにより行われます。この問題を解決することで、新しいブロックがブロックチェーンに追加され、その報酬として新しく発行されるBitcoinとトランザクション手数料がマイナーに与えられます。

2. 投資のリスク

設備投資

高度なマイニング設備は高価で、その価格は常に変動しています。

電力コスト

マイニングは大量の電力を消費します。電力料金の高い地域では、マイニングが採算を取るのが難しい場合があります。

競争

Bitcoinのマイニングは非常に競争が激しく、新しい技術や大規模なマイニングプールが参入することで、小規模なマイナーが報酬を得るのが難しくなる可能性があります。

報酬の半減

Bitcoinのプロトコルには、約4年ごとにマイニング報酬が半減する仕組みがあります。次の半減は2024年に予定されています。

3. 投資戦略

リージョン選択

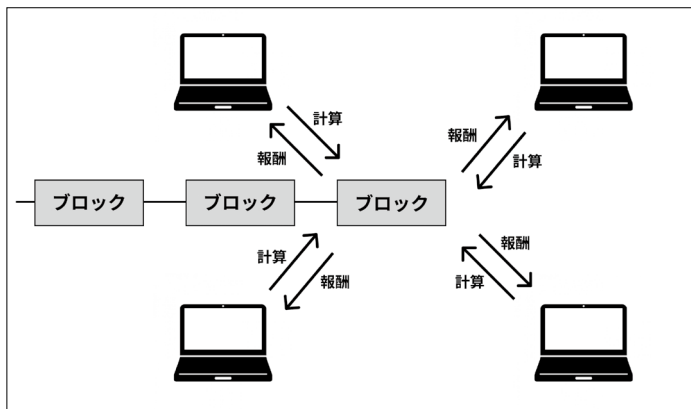
電力料金の安い地域や、再生可能エネルギーを利用できる地域を選択することで、コストを削減することができます。

プールマイニング

個人でのマイニングよりも、複数のマイナーが力を合わせてマイニングを行う「マイニングプール」に参加することで、安定した報酬を得られる可能性があります。

技術の最新化

マイニングの効率を高めるためには、最新のマイニング機器やソフトウェアの導入が必要です。



以上がBitcoinマイニングについての解説です。

Bitcoinマイニングは当然ですが、Bitcoin価格が上昇するにつれてマイニングに参加する人の数が増えます。参加人数が増えると高い処理能力を有するマイニングマシンが多く投入されるので、1台当たりでマイニング可能なBitcoinの数は減ります。また必要なマシンスペックが高くなるため、設備投資に必要な金額は多くなります。

Oさんのマイニング戦略は特殊で、前々回の2016年のバブル崩壊後にBitcoinマイニングを開始しました。

マイニングのために必要となった設備投資の資金は50万円です。

Oさんは仮想通貨は、再度上昇するという期待をもって、Bitcoinがより多く掘れるバブル崩壊後のベア相場を狙ってマイニングを開始しました。

ベア相場を狙ってマイニングを開始するにあたり、Oさんが最初に行ったことは計算です。

1日当たりのマイニングで、回収可能な金額を計算し、2年間の稼働で50万円の初期投資額を回収できることが判明しました。Oさんは早速機材を購入しマイニングを開始しました。

そして2021年の仮想通貨バブルでBitcoinは大幅に上昇し、Oさんは2000万円以上のBitcoinを保有することに成功しました。

さらにマイニングに使用していた機材ですらも、投資額である50万円以上で売却しました。これはBitcoinの価格上昇によってマイニングに注目が集まり、マイニングマシンの重要なパーツであるグラフィックボードが大幅に価格上昇したからです。結果としてOさんはBitcoinを獲得したのみならず、初期投資した機材すらも売り抜けることで完璧な投資に成功しています。

正直言って今からBitcoinマイニングをすることは推奨しません。これは現在のマイナーは大企業が資本投下したことで全体のレベルが大幅に上昇していること、世界情勢の影響で天然資源の価格上昇により電気代が高騰していることなどが要因です。

しかし、Oさんの投資手法については学ぶところが多くあります。それは先を見据えて最適解を模索することです。もしもOさんが他の人たちと同じようにBitcoinを購入するために50万円を投資していたら、最終的な利益は



1000万円にも届いていないでしょう。投資というのは購入することだけではありません。トークンを手に入れる方法は買うことだけではありません。

今回紹介したマイニングの他にも、エアドロップ狙いで新興のブロックチェーンで取引を行う、XのGiveAwayに応募する、テストネットでバグを見つけて報酬を貰うなど、多くの選択肢があります。

投資は直接購入だけだという固定観念に縛られず、多くの選択肢を持つておくことがバブルで大きな利益を上げるためのコツです。

7 MEMEコインで資産10000倍

7人目はMEMEコインで資産2500倍を達成したIさんです。みなさんはMEMEコインというものをご存じでしょうか？ ここで少しMEMEコインについて解説したいと思います。

「MEMEコイン」とは

ジョークやインターネットのミーム (meme) を起源やテーマに持つ仮想通貨を指します。MEMEコインは、伝統的な金融や技術的革新よりも、コミュニティの活動やユーザーの興奮を中心に価値が形成される傾向があります。以下はMEMEコインの歴史と仮想通貨での扱いに関する

詳細な解説です。

1. 最初のMEMEコイン

Dogecoin (DOGE)

MEMEコインの元祖とも言えるDogecoinは、2013年にビリー・マーカスとジャクソン・パルマーによって作成されました。もともとはライトコインのフォークとして開始され、シバ犬をモチーフにした人気のMEMEコインです。Dogecoinは当初、ジョークやコミュニティ活動の一環として使用されていましたが、イーロンマスクがX上で“DOGE GO”と発信したことで、多額の時価総額を持つトークンへと変貌しました。

Dogecoinの成功を受けて、多くのMEMEコインが市場に登場しました。これらのコインの中には短期間で大きな注目を浴びるものもありましたが、長期的な価値ができず頓挫してしまうプロジェクトが数多くあります。





2. 仮想通貨市場での扱い

投資対象として

MEMEコインは短期間での高いリターンを追求する投資家からの注目を集めることが多いです。しかし、基盤となる技術や実際のユースケースが乏しいため、価格の変動が非常に大きいとされています。

トークンの価値は、しばしばコミュニティの強さや活動内容に関連しています。これにより、SNSやフォーラムでの議論やキャンペーンが価格に大きな影響を与えることがあります。

リスク

MEMEコインは短期間での大きな利益を追求する一方で、バブルが弾けると急速に価格が下落するリスクも伴います。

まとめ

一言でMEMEコインがどのようなものかまとめると“ふざけていて面白いトークン”です。本来そこに投資的価値は薄く、投資の原則からは投資対象ではなく、投機の対象として挙げられます。しかし、仮想通貨市場においてMEMEコインが消えることはありません。それは数千倍、数万倍の価格上昇を起こす可能性を秘めているからです。

MEMEコインについては大きく分けて2種類に分別できます。

技術・時事系MEME

技術・アート系MEMEはその技術力や芸術性を押し出すことで、コミュニティの後押しを得ながら活動しているMEMEプロジェクトです。2022年のAIブームではAI〇〇といった名前のMEMEコインが乱立していました。技術そのものは最新のAIの技術には及びませんが、独自開発サークルのような形で、自分たちの技術をMEMEコインとして世界に発信することで注目を浴びようとしています。AIブームの最盛期には上場後数倍、数十倍に価格を上昇させるトークンも現れましたが、トークン価格に見合った技術ではないのですぐに廃れていきました。

時事系MEMEでは、時事ネタとして有名になった人をMEMEプロジェクトとして扱っています。

ロシアとウクライナの戦争が起こった際には、ゼレンスキー大統領のMEMENFTが複数現れています。プロジェクト利益は、ウクライナの支援に寄付するという触れ込みでプロジェクトが立ち上がりました。しかし、プロジェクトの多くは匿名で開始されるものがほとんどであるため、実際にウクライナに支援を行っているかは分からず、コミュニティ参加者も実際にウクライナを応援したいという思想よりも投機として購入する層がほとんどでした。

技術・時事系MEMEは短期間で価格の上昇が起こりやすい傾向にあります。主にプロジェクトがローンチした直後に価格の急騰を狙って参加し、下値で買った方がすぐに



売却してしまうためすぐに価格が下落してしまいます。最近ではDEXに流動性が入れられた直後に最速で購入するBOTが動いていることもあり、人力で高いパフォーマンスを出すことは困難になってきています。

コミュニティ系MEME

コミュニティ系MEMEはその名の通りプロジェクトコミュニティが主導となって活動するMEMEプロジェクトです。先ほど述べた技術・時事系MEMEはコンテンツによってコミュニティを集めようとしているプロジェクトですが、コミュニティ系MEMEはコミュニティありきでトークン価格が上下します。

コミュニティ系MEMEは技術・アート系MEMEと比べて価格上昇時の倍率が圧倒的に高いです。例えば価格が数万倍になったSHIBやPEPEなどが該当しています。これらの急騰したプロジェクトはコンテンツが他のプロジェクトと比べて優れていたわけでは決してありません。

なぜこんなにも価格が上昇するのでしょうか？ それは一部の富裕層が運営するディスコードグループによって、価格が操作されているからです。その仕組みについて解説します。

海外の仮想通貨コミュニティではTier制が採用されています。Tier制とはコミュニティ運営者を頂点のTier1、コミュニティ初期貢献者のTier2、コミュニティ貢献者のTier3、コミュニティメンバーのTier4、という形で明確

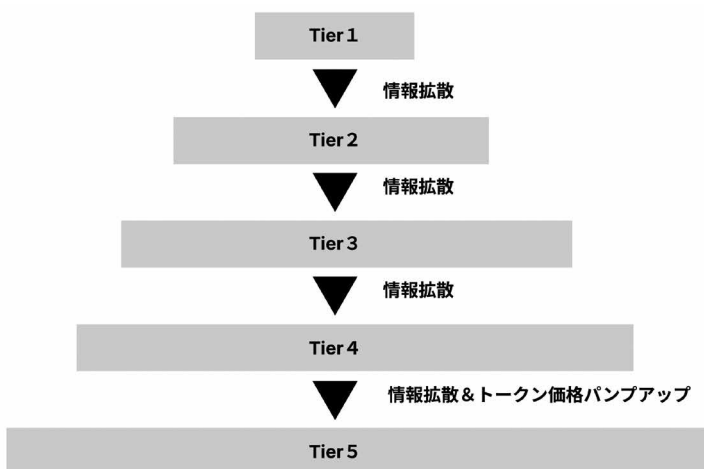
なクラス分けがされているグループのことです。

当然、情報はTier1から下流へと流れていきます。最終的な情報量はTierでの違いはありませんが、高いTierほど情報が早く得られる構造です。

爆発するMEMEコインはTier1によって銘柄が選定され、全員が仕込みを終えた段階で情報がTier2へと回ります。その後一定期間を経てTier3に情報を数年かけて上位のTierが仕込み終えた後、Tier4への情報提供と市場全体への発信活動、そしてグループ内の富裕層が一気にトークンを買うことで価格を一気に上昇させます。

トークン価格の上昇と一気に発信される情報につられて市場参加者を一気に参入させることでさらなる価格上昇を起こすことが可能です。

コミュニティ系MEMEの情報は秘匿されています。一般人が通常的手段で情報を得ることは極めて困難です。





ではなぜIさんはMEMEコインで数千倍の利益を出すことができたのでしょうか？ それはIさんがETHScanの分析を早期から行ってきたからです。第2章“バブルに乗れない残念な人の特徴”で解説している通り、Scanを読み込む技術は投資において役に立ちます。

Iさんが数千倍を叩きだしたトークンは\$PEPEというMEMEトークンです。Iさんは過去に数万倍を叩きだした\$SHIBというトークンの初期購入者かつ数億円の利益を出しているアカウントを特定し、そのアカウント達が購入しているトークンを少額ずつ購入してきました。

ほとんどのトークンは価値を無くしてしまいましたが、\$PEPEが急騰したことによってIさんは大きく資産を膨らませることに成功したのです。Scanに限らず仮想通貨投資では様々なツールを理解し、分析をすることが欠かせません。



8 歩くだけで1億6000万稼いだ男

8人目は歩くだけのBCGで1億6000万を稼ぎだしたNさんです。

Nさんが投資したのはSTEPNというBCGです。あまりに有名になったBCGなのでみなさんの中にも知っている人は多いと思います。NさんはSTEPNが登場した2021年の年末からSTEPNをプレイし始めました。靴NFTを使用して歩くことはもちろんですが、アクシーと同様に2足の靴NFTで1体のNFTを生み出すMINTを行い、爆発的な利益を稼ぐことに成功しました。

ここからはSTEPNについて勉強してみましょう。

1. STEPNとは

STEPNとは靴NFTを購入し、歩くことで報酬である\$GSTを獲得できるヘルスケアアプリです。報酬量は歩く時間によって決定され、歩くことができる時間は靴NFTの所有数によって増加します。ユーザーの生活にウォーキングを促進することでユーザーの健康維持・向上を目的としています。

健康的なライフスタイルの実践を、経済的な報酬と結びつけることで、持続可能なヘルスケアアプリとして成功を収めました。



2. 特徴と利点

コミュニティ

ユーザー同士の交流や競争、共同での目標達成など、コミュニティを形成し、その活性化を図っています。

エコシステム

STEPNのトークンエコノミーは拡張性があり、将来的には他のサービスやアプリケーションとの連携や統合が期待されています。

STEPNの表面上の情報として必要な要素は以上になります。最盛期にはSTEPNは400万人以上のプレイヤーが参加する世界最大のBCGとなりました。

STEPNの成功要因を深く分析することでBCGへの理解が深まりますので、ここからはさらに一歩踏み込んだ話をしていきましょう。**STEPNの何がすごかったのか？**これを理解するためにはポンジスキーム構造を理解する必要があります。

ポンジスキーム構造とは

1. ポンジスキームの概要

ポンジスキームは、初期の投資家に高い配当を約束し、その配当を新しい投資家から集めた資金で支払うという方法で運営されます。しかし、実際には、事業内容に利益を

生む仕組みが存在せず、新しい投資家が参加しなくなると、ポンジスキームは崩壊します。

2. 歴史

この名前は、1920年代にアメリカで巨額の詐欺事件を起こしたチャールズ・ポンジから名付けられました。彼は、短期間で50%の利益を約束し、多くの人々から資金を集めました。結果的に多くの人々が大きな損失を被りました。

3. ポンジスキームの特徴

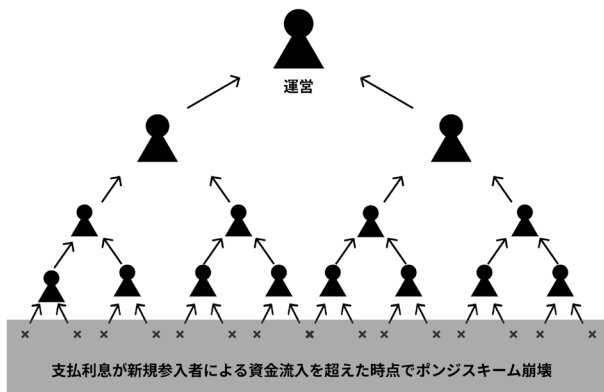
・高い利回り

通常の投資よりもはるかに高い利益を約束することで、多くの投資家を引きつけます。

新しい投資家からの資金を投資家への利益として使用するため、新しい投資家の流入が途絶えるとスキームは崩壊します。

・実質的なビジネスモデルの欠如

スキームの背後には、実際の収益を生むような実質的なビジネスモデルや投資が存在しません。



仮想通貨世界でのポンジスキーム

仮想通貨投資の世界は基本的にポンジスキーム構造です。従来のポンジスキームでは、最終的に運営が飛ぶことで配当が支払われなくなり、ほとんどの人が損をすることになりました。

仮想通貨世界でのポンジスキームは、従来のポンジスキームと違って運営が飛ぶことではなく、トークン価格が暴落することで崩壊します。

仮想通貨でのポンジスキームは従来のものより進歩しています。従来のポンジスキームは現金をプロジェクトに投資し、現金を配当として支払っています。

しかし、仮想通貨のポンジスキームは、現金でプロジェクトの発行する独自トークンを購入することで投資します。そしてBCGであればゲーム報酬、DeFiであればFarming報酬の配当を独自トークンで支払います。

この独自トークンの存在がポンジスキームに新たな可能性を生み出しました。

それは元本と配当の現金化、つまり利確を投資家にまかせることができる点です。投資家はすぐにでも利確したければDEX上ですぐに交換できますし、まだまだプロジェクトが伸びる、と考えれば独自トークンのまま保有し、値上がりしたところで利確することができます。

重要な点は独自トークンのままホールドし、値上がりを期待して保有する人間が一定数存在することです。

従来のポンジスキームは出ていく配当資金を後から調整することが不可能でした。

しかし仮想通貨のポンジスキームでは、ユーザーの射幸心を煽りこのまま値上がりし続けるかもしれない、と期待を持たせることで運営資金を減らすことなく、プロジェクトを行うことが可能になります。

ここで注意しなければならないことは、従来のポンジスキームも仮想通貨のポンジスキームも、いつか必ず崩壊するということです。

原因は大口投資家の利確であったり、プロジェクトへの不信感であったりと様々です。

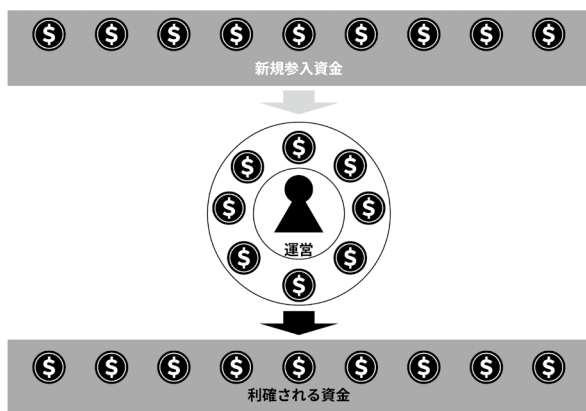
ポンジスキーム構造が大きくなれば大きくなるほど、崩壊が始まってからの暴落速度は速くなります。

ポンジスキーム構造はもともと詐欺で使われていた手法であるのでイメージの悪い方も多いと思います。

しかし、仮想通貨投資をするならポンジスキームを理解



し、ポンジスキームが成立するプロジェクトに投資しなければなりません。仮想通貨で爆発的な利益を上げているプロジェクトの基本的な構造はポンジスキームです。



利確される資金が新規参入資金を超えた時点でポンジスキーム崩壊

STEPNはこのポンジスキームを上手く成功させたプロジェクトです。その成功要因は大きく4つになります。

1.信用創造

STEPNは2021年のソラナハッカソンで入賞した後、セコイヤやアラメダといった有力なVCを獲得しました。その結果、市場から信用あるプロジェクトとして認知させることができたのです。

バブル全盛期だった当時のBCGは、初期に投資すれば

短期間で数倍のリターンが得られる金のなる木でした。しかし1つだけ不安な要素がありました。それがラグプルです。ラグプルとは運営が資金を集めるだけ集めて持ち逃げすることです。有力なVCがバックにつけばラグプルの心配はないので投資家は安心してプロジェクトに投資することができます。

2. 完成されたUI

歴代のBCGでマスアダプションに最も成功したものは、間違いなくSTEPNです。アプリ内でゲーム、NFTマーケットプレイス、DEXが揃っていたため、仮想通貨初心者でも使いやすい設計が整っていました。

ゲーム内に入金しさえすればゲームを始められる仕様は、馴染みのない初心者でも簡単にプレイできました。

3. マーケティング

STEPNのマーケティングは、当時のBCGとしては特徴的なものです。

初期ユーザーこそTwitter経由のWeb3ネイティブでしたが、次のマーケティングは、インスタグラマーを広告として起用し、仮想通貨マーケット外の新規参入者を集めていました。

外部の顧客を連れてきた彼らだからこそ、BCGでありながら400万人規模のユーザー獲得に成功しました。

ここで重要な点は、仮想通貨初心者が大量にゲームに参



加したということです。すでに仮想通貨投資を行っている人達は、多くのプロジェクトがポンジスキーム構造になっていることを理解しています。仮想通貨市場にすでにいる投資家を集めても、すぐに利確されてしまいます。しかし仮想通貨投資初心者であれば、射幸心につられて利確せずにゲームをプレイし続けるので、ポンジスキームを維持しやすい環境を作ることができるのです。

4. ゲーム継続の動機作り

ユーザーにとっての“言い訳”、運営にとっての“建前”、と言い換えることもできます。

冒頭で述べた通り、STEPNのアプリはゲームではなくヘルスケアアプリです。実態はポンジスキームであるにもかかわらず、彼らはヘルスケアという建前を貫き通しています。ただのBCGであれば、ユーザーは利確をしてゲームから退場してしまいます。

しかし、ヘルスケアアプリとして健康増進に役立っている、と意識させることで利確をして退場するプレイヤーを先送りにすることができました。

この動機作りという要素は、本章で紹介したアクシーでも同様です。アクシーはスカラーを利用することで、貧困救済という社会課題に対する建前を持っていました。

スカラー労働者としてゲームをプレイする人は、基本的に発展途上国の人たちです。日本などの先進国の人たちはゲームを開始した時は、お金を儲けるという目的のみを持

っていました。

しかし、スカラー契約を結んで一緒にゲームをしていく中で、労働者達に情が芽生えてしまう人が多くいました。

労働者達の収入を確保するために多くの人がゲームを辞められず、ポンジスキームが崩壊するまでアクシーに残留し続けました。この動機付けという要素が“経済的合理性を度外視してゲームを続ける人”を増やす役割を担っています。

いかがだったでしょうか？

STEPNというBCGを題材にして、仮想通貨式ポンジスキームの概要まで解説しました。ポンジスキームをしつかりと理解することが、仮想通貨投資を行う上では必須です。これからのプロジェクト選定では、ポンジスキームが機能するかという視点をもって行ってください。

9 ドメインに勝るものなし

続いて紹介するのはENS(Ethereum Name Service)というNFTを購入し5000万円以上の利益を出したJさんという海外の方です。

まずはENSについて解説していきます。

1. ENSとは

ENSは、インターネットのDNS(ドメインネームシス



テム)と似た機能を持っています。ENSはDNSと異なり、Ethereumブロックチェーン上で動作します。例えば「0x1234...5678」といったEthereumのウォレットアドレスを「yourname.eth」というようなドメイン名に関連付けることができます。ENSを購入したユーザーは、ENS NFTがウォレットに送付され、マーケットプレイスで自由に売買できます。

さらにENSはEthereumアドレスだけでなく、他の情報(例: IPアドレス、他のブロックチェーンのアドレスなど)も関連付けることができます。

2. ENSの利点

ENSは複雑なEthereumのアドレスを、人間が読みやすい名前に関連付けることで、ユーザーが送金やスマートコントラクトの利用を容易に行うことができます。

さらに正しいアドレスに送金しているかを簡単に確認することができ、アドレスの間違いによる誤送金のリスクを減少させます。

ENSのドメイン名は一度登録されると有効期限が切れて権利が失効するまで、他のユーザーに取得されることはありません。

3. ENSのドメイン取得方法

初期のENSドメインは、オークション形式で取得されました。現在では、NFTマーケットプレイスで他人が所

有するENSを購入するか、ENSの発行サイトに行き、まだ登録されていないドメインを登録し文字数と期間に応じた\$ETHを支払うことで得られます。この料金はENSのシステムの維持や開発に使用されています。

4. その他の機能

ENSには、そのほかにも様々な機能があり、Ethereumアドレスだけでなく他の暗号通貨のアドレスや、コンテンツのハッシュ、その他のデータも関連付けることができます。

5. 注意点

ENSのドメインは一定の期間ごとに更新する必要があります。更新を怠ると、ドメイン名が失効する可能性があります。

以上がENSについての概要になります。要約するとENSとはEthereumブロックチェーン上のドメインです。

JさんはIT企業の起業経験があり、その中でドメイン市場の価値を深く理解していました。そこで、Jさんはブロックチェーン上のドメイン機能が将来的に価値が上がることを先読みし、ENSを購入することを決定しました。

JさんがENSで最初に利益を出したタイミングは、ENS所有者に対するトークンのエアードロップです。



2022年初頭にENS1つ当たり、約1万ドル以上のENSトークンのエアドロップがありました。Jさんは15個購入していたこともあり、エアドロップだけで20万ドル以上の利益を出すことに成功しました。

Jさんの利益はさらに続きます。2022年中旬には、一部のENSが大きく値上がりすることになりました。それは数字3桁のみで構成されているENSです(例:000.ENS)。

ENSは、ウォレットアドレスの代わりに表示される、文字と数字の羅列です。

そこで一部の投資家が数字のみの3桁のENSに注目し、活発に売買が進むことで大きく価値を上昇させました。Jさんもトレンドをいち早く掴み、1つ当たり1000ドル前後のタイミングで10個以上の3桁ENSを購入しました。

最終的に3桁数字のENSは2万ドル～6万ドルで取引され、Jさんは50万ドル以上の利益を上げることに成功しました。

Jさん以外にもENS投資で稼ぐことができた方々は数多く存在します。Amazon.ETHのENSを取得した人は1億円以上の価格での売却に成功しています。

ここで考えていきたいことは、市場はなぜ3桁の数字ENSに対してそれほどの価値を見出したか、ということです。

まず1点目は、数字が唯一全世界共通の規格かつ0から9までの10文字しか存在しないからです。

ENSは英語、日本語、アラビア語など、様々な言語に対応しています。当然のことながら各言語の潜在ニーズは、言語使用者の数に依存します。比べて数字は、ほぼ世界人口の数に近い潜在ニーズがあります。また、どの言語も数字の10文字に比べて文字数が多くなります。3桁数字ENSは1000通りの組み合わせしか存在しないため、ほぼ無限に発行可能なENSの中で1000個だけという希少性を持っています。

2点目はETHScanでウォレットアドレスにENSが表示されることです。

この点には、コミュニティの活動をScanを通じて外に発信できる、という唯一無二のメリットがあります。数字3桁のENSを持つ人たちのコミュニティは、999 Club(スリーナインクラブ)といわれ、999 Clubがプロジェクトを応援したい場合には、Xやニュースにプロジェクト情報を発信する必要はありません。プロジェクトのトークンやNFTを購入するだけで一定のマーケティングになります。購入だけでマーケティングになるのは、EthScanで999 Clubメンバーの購入履歴のトランザクションがリアルタイムで反映されるからです。

999 Clubは、新しいコミュニティのプロモーションの形を提示しました。だからこそ、一過性のブームで終わるのではなく、現在でも1万ドル近いフロア価格を維持しています。



私たちがJさんから見習わなければならないことは、Web2市場で価値のあるドメイン要素をWeb3世界に持ち込んだ時の将来価値を予測できていた点、そしてWeb3の世界で独自に作られる価値を理解していたことです。仮想通貨で新たな価値が提供されるプロジェクトを見つけた時は、ぜひ既存市場の成立ちから勉強して将来価値を予測してみましょう。

10 大暴落トークンを買って爆益!?

最後は、大暴落したトークンを購入し400倍の利益を取ったSさんです。

Sさんは2022年に破綻して、大暴落したLUNAを大底で購入し400倍を取りました。普通の神経をした人は、破綻して価値がほぼ0になったトークンを購入しようとは思わないでしょう。

なぜSさんは大暴落後のLUNAを購入できたのか？これを理解するためには、Iron Finance大暴落の歴史を勉強しなければなりません。

Iron Financeとは？

Iron Financeは、分散型金融(DeFi)の領域でアルゴステーブルコインを提供するプラットフォームでした。

現物のドル通貨や担保資産によって価格が裏付けられて

いるUSDT、USDCなどは、ステーブルコインと呼ばれます。

アルゴリズムや様々なメカニズムを利用して、その価値が一定の範囲、通常は1ドルなどの特定の価格に安定するように設計されたトークンのことを、アルゴステーブルコインと言います。

Iron Financeの開発するアルゴステーブルコインの特徴は一部をアルゴリズム的に価格調整を行い、その他の部分を従来の資産や担保によって裏付けていることでした。

\$IRON

\$IRONは、Iron Financeのステーブルコインです。

このステーブルコインは、一部がUSDCで担保され、残りが後述する\$TITANトークンによって裏付けられています。この設計のおかげで、\$IRONは1ドルに非常に近い価格を維持することができました。

\$TITAN

\$TITANは、Iron Financeのネイティブトークンで、\$IRONの供給を調整する役割があります。

\$IRON(ステーブルコイン)の需要が増えると、新しい\$TITANが発行されることで市場全体の\$TITANの量が増え、価値が下がります。

逆に\$IRONの供給が減少する場合には、\$TITANが利用されることで供給量が減少するメカニズムが設計され



ているので\$TITANの価値が上昇します。

Iron Financeの歴史と暴落

Iron Financeは、2021年に多くの投資家や有名なインフルエンサーによって支持され、急成長しました。

\$TITANの価格は大きな需要から、一時的に非常に高くなりましたが、同年6月に短期間で暴落しました。

なぜ、暴落してしまったのでしょうか？

これはバンクランが起こったからです。バンクランとは多くのユーザーが一斉に資金を引き出そうとすることです。

バンクランの結果、プロジェクトの流動性が枯渇し、\$TITANの価格が実質的にゼロになる事態が発生しました。

バンクランの原因

複雑な仕組み

Iron Financeの担保とアルゴリズムの組み合わせを、多くのユーザーは理解していませんでした。仕組みを理解できていないユーザーが多かったため、価格が下落する際には、一気に崩壊が進みました。

価格の急騰

\$TITANの価格が急騰する中、新しい投資家が大量に参入しました。しかし、多くの投資家が短期的な利益を追求していたため、価格の変動が大きくなってしまったことも、原因の一つです。

流動性の枯渇

\$TITANの価格が下落し始めると、多くのユーザーが\$TITANや\$IRONを売却し始めました。これにより、流動性が急速に枯渇し、システム全体が崩壊しました。

一部の大手ホルダーの行動

一部の大口投資家が大量の\$TITANを売却し始めたことで、パニック売りが加速しました。

信頼の喪失

\$TITANの価格が急落すると、Iron Financeのメカニズムや信頼性に対する疑念が広がり、多くのユーザーがプロジェクトから撤退しました。

以上がIron Financeの概要と暴落の歴史です。

TITANは一時65ドル近くまで急騰しましたが、その後**24時間で12億分の1という仮想通貨史に残る大暴落**を起こしました。

当時の出来事について、多くのインフルエンサーが情報発信を行ってきましたが、\$TITAN崩壊後のその後を語る人はほとんどいません。実はTITANは暴落後に急騰を見せ、100倍以上の値上がりをしているのです。

暴落トークンの購入者はそれぞれ次のような思惑を持っています。



1つは、プロジェクトの持ち直しに期待している層です。暴落を経験した仮想通貨プロジェクトの中には、見事トークン価格を復活させたプロジェクトも複数存在しています。仮想通貨プロジェクトの大暴落の原因は様々ですが、多くの原因はハッキングです。

ハッキング直後に、トークン価格は暴落しますが、VCなどからの資金援助やプロジェクトの持ち直しによってトークン価格が回復することが歴史上、何度もありました。

この経験から「ハッキングは買い」という手法すら存在しています。

Iron Financeの場合は仕組みの崩壊によって価格暴落だったので、回復することは極めて困難でしたが、プロジェクトの仕組みが分かっていない層が持ち直しに期待することで、トークンの買い上げが起こりました。

2つ目はトークン価格操作によって、利益を上げようとする層です。これはMEMEと同じ考え方になります。\$TITANは24時間で12億分の1になったこともあり、一気にトレンドとなりました。

ニュースやXで多くの情報が拡散し、悪い意味で多くの知名度を手に入れました。

トークン価格が下がれば下がるほど、仕掛け人側は少ない資金でトークン価格を急騰させることが可能になります。注目度が上がったトークンを一気に買い上げることによって、多くの投資家の注目を集め、さらなる価格上昇を起こ

しました。



Sさんは以上のことを踏まえてLUNAに注目しました。
LUNAは韓国のブロックチェーン企業Terraform Labs
が開発した、アルゴステーブルコインを持つプラットフォーム
です。以下に、LUNAのプロジェクト概要、歴史、
および市場動向について解説します。

プロジェクトの概要

トークン

・\$UST

Terraは\$USTという、ステーブルコインを開発・運用
していました。USTはドル通貨にペッグするアルゴステー



ブルコインです。Iron Financeでの\$IRONに相当します。

・\$LUNA

\$LUNAは\$USTをサポートする目的で作られたネイティブトークンです。\$USTの裏付け担保として機能し、1USTは1ドル分の\$LUNAと交換ができます。Iron Financeでの\$TITANに相当します。

・\$USTの価格維持機能

\$USTが1ドルを下回った際には\$USTを\$LUNAに変換し、得られた\$LUNAを売ることによって利益を上げることができます。逆に\$USTが1ドルを超えた際には1ドル分の\$LUNAを\$USTに変換し、売ることによって利益を上げることができます。この仕組みが機能する限りステーブルコインとして成り立ちます。

暴落の原因

時価総額の逆転

\$USTがドルにペッグするための裏付け資産は\$LUNAの時価総額です。しかし、暴落直前には\$USTの時価総額が\$LUNAの時価総額を超えてしまっていました。

これは担保が不足していることを意味し、時価総額が逆転してしまった段階で、いつ崩壊してもおかしくありませんでした。

\$USTのドル割れ

\$LUNA暴落の直接的な原因は、CurveFinance上で\$USTが1ドルを大きく割ってしまったことです。

CurveFinanceとはステーブルコインのスワップに特化したDEXです。主に大口の投資家やVCが利用します。USTが\$1ドルを大きく割ってしまったことにより投資家のパニック売りが起こりました。

本来であれば\$USTが1ドルを割った際には、\$USTに市場の買いが入るように設計されていましたが、それはあくまでゲーム理論の上での話です。アルゴステーブルコインの仕組みを理解していない層が、パニック売りを始め、担保として機能するはずの\$LUNAの時価総額が\$USTの時価総額に不足していることも相まって、価格が暴落しました。\$USTが下がり続ければ当然のことながら\$LUNAの価格は\$UST以上に下がります。

以上が\$LUNAが暴落した原因です。Sさんは\$USTの時価総額が\$LUNAの時価総額を超えた段階で、いつか\$LUNAが暴落することを予測しました。

まず、\$LUNAを証拠金取引でショートすることで1000ドルの原資を9000ドルにしました。

その後、Iron Financeでの学びから、\$LUNAが価格上昇することを見越して、暴落真っ只中の\$LUNAを購入し続けました。見事に底値で\$LUNAを購入することがで



き、その後400倍の利益を出すことに成功したSさんは2日間で6000万円以上の利益を出すことに成功しました。

私たちがSさんから学ぶべきことは、プロジェクトの内容、仕組み、機能をしっかりと把握することの重要性と過去の事例から学び生かすことです。

バブル相場の中でも、暴落を起こすトークンは存在します。大きなプロジェクトが崩壊した際には、逃げるだけでなく、どうすれば利益につながるのか、を考えて立ち回りましょう。





第 4 章

今すぐしろ！ 億るための魔法の行動



この章ではバブルに備えて今からできることを解説していきます。

バブルの開始を見極めることは、極めて困難です。バブルで勝てる人間は、枯れ相場でいかに勉強したか、どれだけ有望なプロジェクトに投資できたか、ですべてが決まります。

次のバブルで一生分の所得を得るために1秒でも速く動き出してください。

1 毎週ETH、L2コインを積み立てる

まず最初にやってほしいことは、ETH、L2コインを毎週購入し続けてください。

この定期的に一定の金額を投資する手法は、**ドルコスト平均法**と言われています。

投資について勉強されたことのある方は、聞いたことがあると思います。

この手法は、投資のタイミングや市場の状況に左右されにくい、最もポピュラーなものです。

ドルコスト平均法の目的は、取得価格を均一化することです。大底で仮想通貨を購入し、利益を最大化したい、と考える方は多いですが、実際問題それは不可能です。大きなプロジェクトの破綻や世界情勢、マクロ経済など仮想通



貨市場の価格を上下させる要因のすべてを分析することは、不可能だからです。ドルコスト平均法を用いて、定期的に購入することによって急騰、急落に左右されない投資が可能になります。

株式投資の世界では、ドルコスト平均法を用いる際には、1か月毎の投資を推奨するものが多いです。

しかし仮想通貨の場合には、1週間毎に投資することをおすすめします。なぜなら仮想通貨の価格変動は、株式に比べて圧倒的に速いからです。

1か月も期間が空いてしまうと、変動幅が大きくなってしまい、ドルコスト平均法のメリットが薄くなってしまいます。

そしてドルコスト平均法を用いて投資する対象には、ETH、L2系のコインをおすすめしています。ドルコスト平均法での投資対象には、安定性や信頼性が求められます。投機対象となるようなNFTやMEMEコインのようなものは、暴騰した時の上がり幅は目を見張るものがありますが、積み立て投資するようなものには適していません。

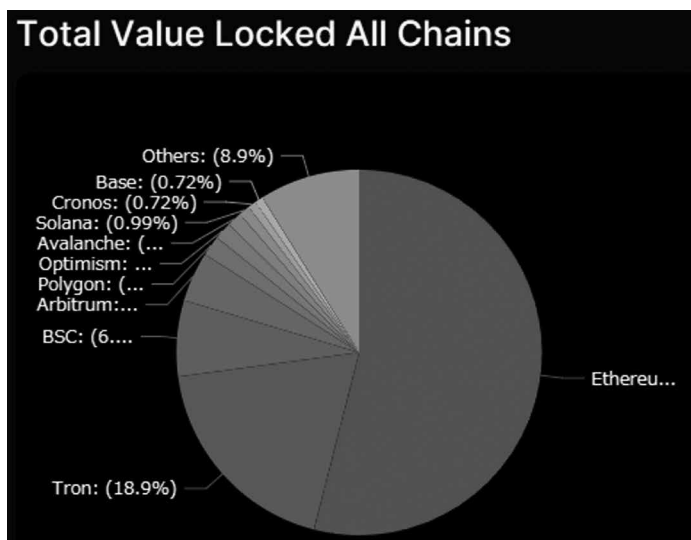
積み立て投資の対象には、バブルでしっかりと価格上昇が起こり、下値が安定しているものを考えると、必然的にETH、L2系トークンとなるのです。

\$ETHはご存じの通り世界一の時価総額を誇るEthereumブロックチェーンの基軸通貨です。

Ethereumブロックチェーンには仮想通貨市場全体の50%以上の資金が集まっています。

様々なブロックチェーンが生まれていますが、Ethereumブロックチェーンが世界一の座を明け渡したことは1度もありません。

現状、最もユーティリティに優れ、外れのない仮想通貨は\$ETHです。



しかし、ETHはすでに多くの時価総額が集まっているので、価格上昇幅は少なくなってしまう。

そこで選択肢に入れていただきたいものが、ETHのL2系プロジェクトです。

L2とはEthereum Layer 2というEthereumの拡張



プロジェクトと認識していただければ大丈夫です。

Ethereumブロックチェーンは、多くのユーザーが利用する世界最大のブロックチェーンです。当然ユーザー数が増えれば、ランニングコストの増加、承認速度の低下といった問題が起こります。

この問題を解決するために作られたブロックチェーンがL2です。

L2の詳しい解説は省きますが、ブロックチェーン運営に必要な処理をL2で行い、一部をEthereumブロックチェーンに処理をまかせることで分散化を図り、Ethereumブロックチェーンの負荷を軽減しています。

L2にはArbitrumチェーン(\$ARB)、Optimismチェーン(\$OP)、Baseチェーン(\$BASE)などがあります。次々に新たなL2系プロジェクトが生まれていますが、ドルコスト平均法で購入する対象には上記の3つが適切だと考えています。

先にも解説した通り、ドルコスト平均法で必要となるのは安定性と信頼性です。

L2系トークンのマイナーなものには、手を出す必要性はありません。

そもそも\$ARB・\$OP・\$BASEは数十倍になる可能性を秘めています。

バブルで圧倒的な価格上昇をする仮想通貨には一定の法

則があります。

それは一度もバブルを経験していないということです。言い換えるとバブル崩壊後に登場した仮想通貨の方が、価格上昇が起きやすいということです。

なぜなら、新しく上場したトークンの方が市場流通枚数が少なく、余計な売り圧が少ないからです。

L2系トークンは、前回の2021年のバブル崩壊後に登場しました。つまり一度もバブル相場での価格急騰を起こしたことはありません。

Ethereumブロックチェーン傘下にあることでの信頼性、そしてバブル未経験故の上昇の可能性、ドルコスト平均法で購入するための条件が揃った仮想通貨です。

ここからは、ドルコスト平均法で購入することの考え方について解説していきます。

コツコツとETH、L2系トークンを購入する目的は、バブル相場で使える原資を少しでも増やすことです。

すでに解説した通り、L2系トークンは数十倍の可能性を秘めていますが、目的はあくまでバブル期に使える資金を増やすことです。

バブルが始まると数十倍のリターンが得られる案件はいくつも出てきます。目先の利益に囚われることなく淡々と積み立てましょう。



2 オフラインで詳しい友達を作る

2点目はオフラインで詳しい友達を作ることです。

仮想通貨投資を行う上では表面上の知識だけではなく、歴史や仕組みについて詳しく理解する必要があります。知識は断片的な情報を多く所有することが目的ではありません。

情報を有機的にリンクさせ、過去の情報や傾向から未来の値動きを予測することで、初めて意味を成します。

この有機的に情報をリンクさせることにおいて、実際に経験したことのある人に勝つことはできません。

過去の記事を読むことでも勉強はできますが、実際に相場の雰囲気を感じ取り、様々な外部要因に悩まされながら投資してきた人たちの経験は、実際の資産以上に価値のあるものです。昨日今日、仮想通貨投資を始めた人間が勝てる世界ではないのです。

しかし、その経験から導き出される予測を聞いたり、考え方を共有してもらったりすることはできます。実際に投資するかは置いておいて、先駆者の思考を学ぶことは重要です。

その中で問題になってくることは、誰と友達になるかです。先駆者であれば誰でもいいわけではありません。なかには、情報商材の販売やポジショントークで、損することが分かっているにもかかわらず投資を勧める人もいます。

正しい知識と経験を積むためには、できる限り多くの人と話をし、様々な角度から情報を見極めることが重要です。

多くの人と会うメリットは他にもあります。人にはそれぞれ得意な分野があるからです。プロジェクト運営者として優秀な人もいれば、投資家として優秀な人もいます。

さらに投資家として優秀な人の中では、NFTが得意な人、DeFiが得意な人、BCGが得意な人、それぞれの分野毎に、優秀な人の定義は変わってきます。

様々な分野の第一人者に話を聞くことができれば、仮想通貨への理解が一気に深まります。

そして多くの人と話をするために重要なことは、一番最初に誰と会うかです。

仮想通貨業界の優秀な投資家と話をするために最も効率的な動きは、紹介をしてもらうことです。人は同じような環境の人間で固まります。優秀な投資家の周りには、優秀な投資家がたくさんいます。1人会うことができれば、芋づる式に優秀な方たちと人脈を作ることができます。逆に情報商材やマーケターの周りには、同じような属性を持った人たちです。一番最初に変な業者に当たってしまうと、紹介される人も同じような人たちばかりになってしまいます。



ここからは私の経験に基づいて、一番最初はどんな人と会えばいいのか？ そしてどうやって立ち回ればいいのか？についてアドバイスをしていきます。

1. DeFiについて詳しい人と友達になろう

一番最初に選ぶべき人はDeFiに詳しい人です。なぜかというDeFiの分野が仮想通貨において最も難しい分野だからです。

DeFiの資金効率の進化は、他の分野を圧倒しています。現在でもDeFiの進化に対応して、第一線で投資を行っている人は日々勉強をし続けている証です。

話を理解することは難しいかもしれませんが、最初はDeFiの分野について理解を深めることをおすすめします。

BCGやNFTに詳しい人がダメだというわけではありませんが、正しい知識を持っている人が少ない分野であるので、おすすめはできません。

DeFiは正しい知識を身に着けなければ運用し、収益を上げ続けることはできません。

しかし、NFTやBCGでは、投資対象としてではなく、エンターテインメントの要素に惹かれて参加している人も多いからです。長く触れている人でも、エコシステムやトーケノミクスを理解できている人は一握りです。時間効率の面から考えても最初はDeFiに詳しい人に目星をつけましょう。

2. DeFiについて議論されている オンラインコミュニティに入ろう

現在、日本国内のDiscordやテレグラムのコミュニティは複数あります。

その多くがBCGをメインとするギルド、と言われるコミュニティです。ギルドの中の人にもDeFiに詳しい人はいますが、大部分はBCGについての意見交換や宣伝がほとんどです。

DeFiに詳しい人を見つけるためには、DeFiについて議論が進んでいるコミュニティを探することが一番の近道です。

コミュニティの中で仲良くなった人や、DeFiについて詳しい人が参加するオフラインイベントがあれば、積極的に参加して話しかけていきましょう。

3. 生徒や弟子ではなく友達を目指そう

仮想通貨に詳しい人と知り合いになり、話をすることがゴールではありません。知りたいことを聞くだけの関係は、友達ではなく、生徒か弟子です。それは持続可能な関係性ではありません。

そして、生徒や弟子の関係性では、表に出ない情報、大々的には語れない情報を話してくれることはありません。

友達として、対等な関係を築くためにも、必要なことはギブアンドテイクです。



一方的に知識を貰うのではなく、こちらからも情報を与えられるようになります。

知識の少ない人でも与えられるものは何か？ それは最新の情報を調べて共有することです。どれだけ詳しい人でも業界全体のことを追いつけることは不可能です。確実に穴はあります。その穴を少しでも埋められるように、こちら側からも情報を落とすことを忘れないでください。

最初は間違っただけ詐欺プロジェクトや将来性のないプロジェクトを紹介してしまっても大丈夫です。投資判断は自己責任ですし、粗があれば指摘してくれるでしょう。

なにより調べて発信することは、自分で整理することにもつながります。ギブアンドテイクを忘れないようにあくまでも友達になることを目指してください。

3 毎日チャートを確認する

3点目は毎日チャートを確認することです。

ポジションを持っているか持っていないかにかかわらず、毎日しっかりと確認してください。欲を言えばデスクの前にいるときは必ずチャートを表示してほしいくらいです。

チャートを確認し続けるのは相場の変動を体に馴染ませるためです。バブルはよーいどんで始まるわけではありません。徐々に価格が上がり、Bitcoinが最高値を更新することでやっとバブルだと全員が認識します。

毎日チャートを確認することで価格の変化に敏感になることができます。

仮想通貨には必ず抵抗帯が存在します。

抵抗帯とは、テクニカル分析の指標の一つです。

価格が上昇する際に一時的に上昇が停滞したり、価格が下落する際に一時的に下落が停滞する価格帯を指します。

これは過去の取引履歴をもとに、特定の価格帯での売買のバランスや投資家の心理から作られます。

毎日のチャート確認を怠るとどこでどの程度の期間、抵抗されているのかが分からなくなってしまいます。

毎日チャートを意識している人は、なかなか超えなかった抵抗帯を超えた瞬間に、違和感を感じます。その違和感がバブルのスタートかもしれません。

バブルで勝つために最も重要なことは、バブル相場に突入したことを認識することです。

4 DeFiの基礎をマスターする

4つ目はDeFiの基礎をマスターすることです。DeFiは仮想通貨の分野の中で最も進化の速い分野となっています。最新の技術をマスターするまでには、時間がかかりますが、基礎的なことは理解しておいて損はありません。



DeFi (Decentralized Finance) とは

DeFiは「分散型金融」とも呼ばれ、ブロックチェーン技術とスマートコントラクトを利用して金融サービスをデジタル化したものです。

DeFiの目的は、中央機関や仲介者を排除し、サービスをより透明性高く効率的に、そして誰でもアクセス可能な形で提供することです。先進国では当たり前に使っている銀行サービスですが、発展途上国の中では国民の半分以上が銀行にアクセスできず、公平なサービスとは言えないのが現状です。

しかし、DeFiでは本人確認や住所証明といった煩雑な手続きが必要なく、誰でも、どこでも、いつでも、金融サービスにアクセスすることができます。従来の金融システムの欠点を補完し、新たな金融市場の形成が期待されています。

DeFi「分散型金融」のなかでユーザーが最も触れるものは、DEX「Decentralized Exchange」といわれる取引所です。従来の取引所と異なり、本人確認や住所証明などの提出を必要としません。

DEXでは仮想通貨同士の交換や貸借、証拠金取引を行うことができ、その自由度の高さから人気を博しています。

現在多くのDeFiプロジェクトが存在しますが、ほとんどのものはフォークと言われるコピー商品です。

ここからはコピー元となった有名なDeFiプラットフォーム

ームについて解説していきます。

1.Uniswap

Uniswapは、Ethereumブロックチェーン上で動作する分散型のスワッププロトコルです。その目的は、トークン間の自動化された取引を提供することにあります。これは従来の取引所とは異なり、オーダーブックを使わずにトークンの交換をすることができます。代わりにAMM (Automated Market Make) という取引形式を採用しています。

Hayden Adamsによって創設されたUniswapは、2018年に初めて発表されました。

Uniswapは、流動性プールと呼ばれるスマートコントラクトを利用しています。

ユーザーは流動性プールにEthereumやその他のERC-20トークンを預けることで、流動性提供者となります。これによって他のユーザーはスリッページが少なく、安定した価格でトークンを交換できるようになりました。

Uniswapの特徴的な点は、流動性プロバイダーになるための障壁が非常に低いことです。誰でも資金をプールに提供することで取引手数料の一部を収益として得ることができます。

これによりユーザーは自らが所有するトークンから受動的な収入を得ることが可能になりました。



流動性プールへの参加と取引の両方は非常にシンプルです。ユーザーはブラウザを介して数クリックで実行することができます。

またUniswapは完全に分散化されており、利用者はプラットフォームに対して個人情報を開示する必要はありません。これにより、プライバシーを重視するユーザーにも魅力的な選択肢となっています。

さらに、UniswapはEthereumエコシステム内で幅広く採用されており、多くのDeFiプロジェクトやアグリゲーターがUniswapの流動性プールを活用しています。そのため新しいトークンの流動性を迅速に提供するメカニズムとしても機能しており、DeFiセクターの成長を支える基盤の一つとなっています。

そして2021年5月からはUniswap V3という新しい製品をリリースしました。Uniswap V3はこれまでのV2と比較して、資本効率の大幅な向上、より柔軟な流動性の提供、そして細かい価格の範囲を設定できる機能が追加されました。

最も注目すべき特徴の一つは、集中化された流動性です。V3では、流動性プロバイダーは特定の価格範囲に資本を割り当てることができ、その範囲内でのみ流動性を提供することが可能になっています。

これによって流動性提供者が彼らの資本をより効果的に

運用できるようになりました。

V3のもう一つの重要な機能は、手数料を任意で変更できる点です。

Uniswap V3では、プールごとに異なる手数料が設定されており、市場の状態に応じて手数料を調整することができます。これにより、流動性提供者はより多くの手数料収入を得る機会を得ることができました。

また高ボラティリティのアセットに対してはより高い手数料を設定することでリスクを補償することができます。

さらにV3ではレンジオーダーという新機能も導入されています。これはトレーダーが特定の価格範囲内で限定的に流動性を提供することで、通常のリミットオーダーのように機能させることができます。この機能は、トレーダーがより戦略的な取引を行い、市場の動きに応じて利益を最大化することを可能にします。

Uniswap V3はまた、スマートコントラクトの効率を改善し、ガスコストを削減しました。これはEthereumネットワーク上での取引のコストを低下させ、より多くのユーザーがUniswapを利用できるようにするという目的があります。

Uniswap V3は分散型取引所 (DEX) におけるイノベーションの最前線に位置し、柔軟性、効率、そして利用者に対する報酬の最適化に新たな基準を設けました。これによ



り、DeFiの未来においても中心的な役割を担うことが予想されます。



2.Compound

CompoundはEthereumブロックチェーン上に構築された、DeFiプラットフォームの一つです。

Compoundの核となる概念は、仮想通貨を貸し出したり借りたりすることができるオープンな金融市場を提供することです。ユーザーはEthereumベースのトークンをCompoundのプロトコルに供給することで、受動的な利息収入を得ることができます。また資金が必要なユーザーは資産を担保にすることでトークンを借りることができます。

Compoundの特徴はその運営の自動化と透明性です。従来の銀行のような中間者がいなくても、スマートコントラクトを通じて貸借が行われます。これにより、ユーザーは信頼性とセキュリティを確保しながら、グローバルな資金市場にアクセスすることができます。

利息率は、供給と需要に基づいて市場によって自動的に設定されます。つまり、あるトークンの需要が高まれば、そのトークンを供給することによって得られる利息率が上昇するということです。また、借り手は供給されたトークンに対して一定の利率を支払う必要があります。

Compoundは独自のガバナンストークンであるCOMPも導入しています。COMPホルダーは、プロトコルのアップデートや変更に関して投票することができ、分散型自立組織(DAO)の形態で運営が行われるため、ユーザー自身がプラットフォームの将来を形作ることができます。これにより、利用者は単なるパッシブな参加者ではなく、プロトコルの運営に直接関与するアクティブな参加者となります。

Compoundのようなプロトコルは、従来の金融システムにアクセスできない人々が金融サービスにアクセスできる可能性を提供しています。

また、金融の中央集権化を解消し、透明性と効率性をもたらす新たな金融の形態として注目されています。

Compoundはその革新性でDeFiセクターの成長を牽引し、世界中の投資家に新しい収益機会を提供しています。





3. Lido Finance

Lido Financeは、DeFiプロジェクトの一つで、ステーキングのサービスを提供するプラットフォームです。具体的には、ユーザーがEthereumなどのProof of Stake (PoS) に基づく仮想通貨をステーキングする際に、流動性の問題を解消するソリューションを提供しています。

通常、PoSメカニズムにおいては、トークンをステーキングすることでネットワークのセキュリティ維持に貢献し、その見返りに報酬を得ることができます。しかし、ステーキングしたトークンは一定期間ロックされるため、その間は流動性が失われてしまいます。

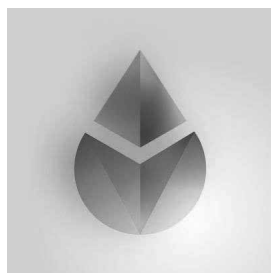
Lidoはステーキングした資産に代わる流動性トークンを発行することで、この問題に対処しています。

例えば、ユーザーがEthereumをLidoにステーキングすると、同等の価値を持つstETH (ステーキングされたETH) というトークンが発行されます。このstETHはロックされずに自由に取引することができるため、ユーザーはステーキングによる報酬を得つつ、トークンの流動性を維持することができます。

また、LidoはDAOによって運営されています。LidoのDAOメンバーは、\$LDOと呼ばれる独自のガバナンストークンを持っており、プラットフォームの重要な意思決

定に投票する権利を有しています。これにより、コミュニティが直接プラットフォームのガバナンスに関与し、プロトコルの将来を形作ることができます。

Lido Financeはステーキングの流動性を提供することで、ユーザーは自身の資産を効率よく運用することが可能となっています。Lido Financeが提供するプロダクトはDeFiの成長と発展を加速させ、従来の金融システムに新たな代替手段を提供することで、金融の未来に大きな影響を与えています。



4. Yearn finance

Yearn Financeは、仮想通貨のマネージメントを自動化することを目的としたDeFiプラットフォームです。2020年に開発者のアンドレ・クロニエによって創設されたYearn Financeは、イーールドファーミングとも呼ばれる利回り最適化戦略を通じて、仮想通貨ホルダーに対し受動的な収益を提供することを目的としています。

Yearn Financeは、自動的に複数のDeFiプロトコル



を經由し、最適な金融投資戦略を提供しています。ユーザーのYearn Financeに資金を預け入れることで最大効率のDeFi運用を行うことができます。

このプロセスは完全に自動化されており、個々のユーザーが複雑な戦略を自ら考案する必要はありません。

Yearn Financeのメインプロダクトは、「Vaults (ヴォルト)」です。Vaultsは、投資戦略を実行して収益を最大化するために使用される特別なプールです。ユーザーは特定の暗号資産をVaultに預け、その後、その資産はVaultに組み込まれた戦略に従ってDeFiエコシステム内で最適に運用されます。

得られる収益はユーザーに分配され、いつでも引き出すことができます。

Yearn Financeのガバナンストークンは「YFI」と呼ばれ、プロトコルの重要な意思決定に投票するために使用されます。YFIホルダーは、プロトコルの手数料構造、新しいVaultの追加、その他のガバナンス提案について投票することができます。

Yearn Financeの存在は、DeFi分野において重要な意義を持っています。

初心者から熟練者まで、様々なユーザーが複雑なイールドファーミング戦略を自身で考える必要なく、広範囲な暗号資産の最適化された収益化を可能にしています。それに

より、銀行や金融機関に対する強力な代替案となり得ており、暗号資産の新たな価値創造をしています。



5.GMX

GMXは分散型の金融取引プラットフォームであり、ユーザーが煩雑な本人確認や住所証明を行うことなくレバレッジ取引を行えるように設計されています。

GMXの目立った特徴は、スポット取引とパーペチュアルスワップ取引の両方をサポートしている点です。

GMXは、ArbitrumとAvalancheという2つのブロックチェーン上で運営されています。これにより、高速かつ低コストで取引を実現しています。

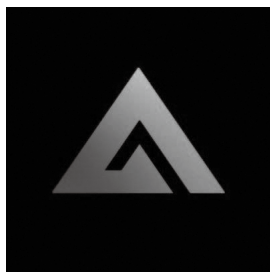
GMXプラットフォームは、市場における実際の流動性を使用して価格を決定します。これは、いわゆる「オラクル」と呼ばれる、ブロックチェーン外のデータフィードを使うことにより行われます。このアプローチにより、ユーザーはスリッページを最小限に抑えながら、大規模な取引を効率的に行うことができます。ユーザーはGMX上で仮



想通貨を担保にしてレバレッジをかけることができ、利益を最大化することが可能です。

GMXは独自のトークンも発行しており、これを用いてプラットフォームのガバナンスに参加したり、手数料の収益を得たりすることができます。トークンホルダーは投票を通じてプラットフォームの方向性を左右することが可能であり、DAOとしての性格を持っています。

総合的に見ると、GMXは透明性が高く、柔軟性に富んだ取引体験を提供する革新的なDeFiプラットフォームです。それは、伝統的な金融システムが提供できない自由度と機会をユーザーに与えるものであり、分散型金融の未来を形作る一助となっています。



5 BCGの違いを理解する

5つ目はBCGの違いを理解することです。

BCG（ブロックチェーンゲーム）の世界は複雑です。長年BCGをやり続けている方でも分かっていない人は多い

ので以下の内容を理解できているだけでも、周囲よりも一歩リードできます。

BCG(ブロックチェーンゲーム)とは

BCGとは今までにあった一般的なゲームにトークンやNFTを活用したゲームのことです。

ゲームの世界に一点ものの証明であるNFTとトークンが利用されているのでゲーム内経済という新しい視点が生まれています。そしてこのゲーム内経済をエコノミクスといい、トークンがゲーム内エコノミクスで占める役割をトークノミクスと言います。

BCGはNFTゲームとGameFiの2種類に分類することができます。

NFTゲームとGameFiの違いは、エンターテインメント目的のゲームなのか投資対象として利益追求を求めるゲームなのかの2種類に分けられます。

NFTゲーム

NFTゲームは従来のゲームの延長線上に存在するエンターテインメント目的のゲームです。

売買可能なトークンが存在せず、NFTのみを使用し従来のゲームに新たな視点を加えたものになります。

例を挙げるとすれば、NFTを活用することによってゲーム全体での武器やキャラ等の総流通量を操作できます。



新たな価値の創出という面では面白いゲームを作ることができる可能性はありますが、投資対象として適切ではありません。

GameFi

GameFiはフロント部分がゲームを活用していますが、中身は完全に金融 (DeFi) です。

NFTゲームとの見分け方はホワイトペーパー内にエコノミクス設計、もしくはトークノミクスの項目が存在していればGameFi、それらしい項目がなければNFTゲームと判別することができます。

中身がDeFiなのであればGameFiよりもDeFiをやった方がいいのではないかと思う方もいると思います。しかしGameFiにはDeFiにはない強みがあります。

1つはユーザー獲得がDeFiに比べて容易なことです。

DeFiやDEXに関する知識のない人にとってDeFiを理解することは困難です。さらにDeFiに置ける操作は独自性が強いものが多く、ユーザーが操作を理解するためのハードルも高いです。

しかしGameFiのフロント部分はゲームです。操作性についても基本はゲームをするのみであるため初心者でも容易に理解することができます。中身はDeFiでありながらフロントをゲームにすることによって多くのユーザーを

集めやすいという利点がGameFiにはあります。

強みの2つ目は報酬に偏りが生まれる点です。

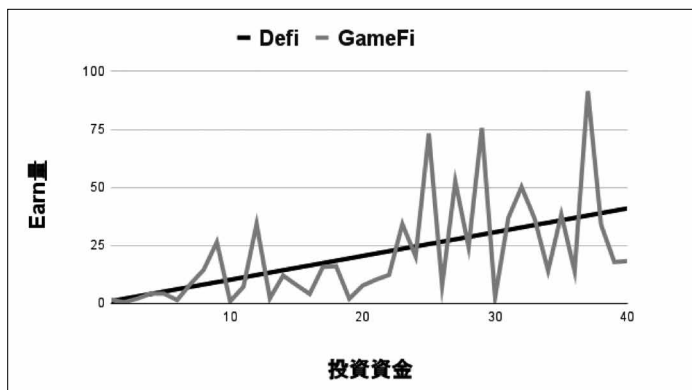
DeFiにおいては報酬の排出はスマートコントラクトによって自動で行われています。資金を預け入れている限り、24時間年中無休で利息を獲得することができます。

利息の獲得量は預け入れている資金量に依存し、ユーザーの努力によって報酬を増やすことはできません。

しかしGameFiではNFTを購入し、ゲームをプレイした人に対して報酬が排出されます。

このゲームプレイに関してはFPSのように単純な技術力の差ではなく、運営から発信される情報の精査や環境分析がしっかりとできているか、によって左右されます。

つまり努力次第で収益を増やせる可能性があるという点はDeFiよりも優れた点といえます。



NFTゲームとGameFiの違いについては以上です。



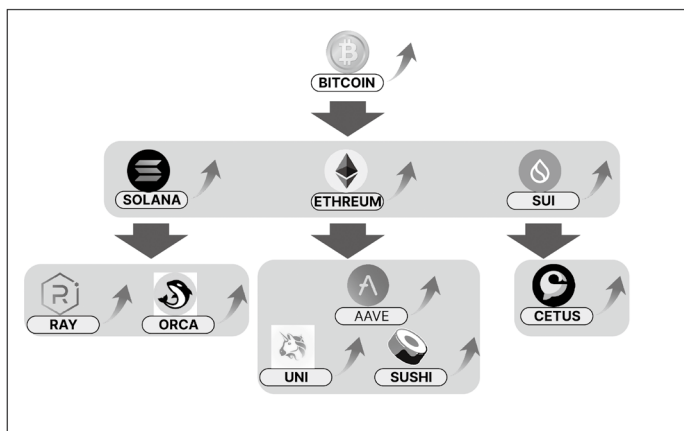
6 資金の流れを理解する

6点目は資金の流れを理解することです。

資金の流れとは、仮想通貨市場に外部から資金が流入した場合にどのような順番でトークンに資金が流れやすいかを理解することです。

バブルにおいて重要になってくるのが「波乗り」と言われる連想ゲームです。波に乗ることでバブルでさらなる利益を出すことができます。

バブルはBitcoinの価格が上昇するところから始まります。ここでBitcoinが上がっているからといって、Bitcoinを購入することは悪手です。



Bitcoinが上昇した後には上がるトークンはBitcoinではありません。Bitcoinに流入した資金は周辺のETH、

BNB、SOLといった主要ブロックチェーンの基軸通貨へと流れていきます。その後は各ブロックチェーン内のDEXやゲーム系トークン、そして末端のプロジェクトへと資金が流れていきます。

波乗りで重要なことは波に乗り遅れているトークンを探すことです。波乗りに限った話ではトークンを精査する必要性はありません。知っておかなければならないのは何系に分類されるトークンであるかということです。同系統のトークンが値上がりしているのに反応をしていないトークンがあればチャンスです。乗り遅れたトークンに資金が流入する可能性が大いにあります。

以下にトークンの系統について一覧表をまとめていますのでぜひ参考にしてください。

チェーン系	DeFi系	CEX系	ゲーム系	ウォレット系
ETH	UNI	BNB	SAND	TWT
BNB	LDO	OKB	AXS	SFP
ARB	AAVE	CRO	GALA	
MATIC	INJ	BGB	APE	
OP	MKR	GT	FLOKI	
AVAX	GRT	TKX	ILV	
SOL	TUNE	KCS	GMT	
BASE	SNX	HT	RON	
TRX	FRAX	MX	MANA	
DOT	CRV		YGG	
ATOM	GMX		GF	
NEAR	CAKE			
SUI	COMP			
APT	1 INCH			
IMX	TRB			
	SUSHI			
	BAL			
	JOE			
	CEL			



7 VCを理解する

7つ目はVC（ベンチャーキャピタル）について理解することです。

ベンチャーキャピタルとは新興企業や起業家に資金を提供する専門の投資ファンドや組織を指します。ベンチャーキャピタルは、通常、高いリスクを伴う初期段階の企業への投資を行うことで、将来的に大きなリターンを得ることを目標にして活動しています。

バブルにおいてベンチャーキャピタルを見ることは必須の条件となってきます。将を射んとする者はまず馬を射よという言葉の通り、ベンチャーキャピタルの動きから有望なプロジェクトを探しましょう。

また、優秀なベンチャーキャピタルが出資しているプロジェクトというだけで一種の箔がつきます。バブルとは大規模な金余り状態が起こっており、多くの投資家が有望なプロジェクトを探しています。バブル期においてのICOやIDOでは、有力なベンチャーキャピタルが投資したという実績だけで投資対象として魅力は十分です。

以下に知っておきたい仮想通貨に積極的に投資しているベンチャーキャピタルを載せておきます。こういったベンチャーキャピタルが存在しているのかは暗記必須です。

有力なベンチャーキャピタル一覧

1.Andreesen Horowitz (a16z)

アメリカを中心に多岐にわたる業界への投資を行っているが、仮想通貨・ブロックチェーン関連の投資にも非常に積極的です。a16z Crypto Fundという専用のファンドを運営しています。

2.Union Square Ventures (USV)

早期段階のスタートアップへの投資を得意としており、多くの仮想通貨関連のプロジェクトに投資しています。

3.Pantera Capital

仮想通貨とブロックチェーン専門の投資ファンドとして知られ、多くのプロジェクトに早期から投資を行っています。

4.Digital Currency Group (DCG)

仮想通貨・ブロックチェーン関連の企業への投資や、関連するメディアやサービスを所有・運営しています。

5.Polychain Capital

仮想通貨とブロックチェーンに特化したヘッジファンドで、多くのトークンプロジェクトや関連スタートアップに投資を行っています。



6. Blockchain Capital

ブロックチェーン技術と仮想通貨に特化したVCとして、多くのスタートアップへの投資を実施しています。

7. Coinbase Ventures

仮想通貨取引所Coinbaseの投資部門として設立され、ブロックチェーン技術に基づくスタートアップへの投資を行っています。

8

IDOプラットフォームの 目星をつける

最後はIDOプラットフォームに目星をつけることです。

バブルの醍醐味はIDOプラットフォームです。毎週のように有望なプロジェクトがIDOプラットフォームを使って、新たなプロジェクトがIDOを行います。IDOに参加するための条件は各プラットフォーム毎に異なっていますが、参加することができればものによっては数日で数百倍の利益を出すことができます。

ここからは前回のバブルで高倍率のトークンを排出したIDOプラットフォームを記載しておくのでぜひ参考にしてください。

Polkastarter (POLS)

Polkadot エコシステムをベースとしたIDOプラットフォームです。クロスチェーントークンプールとオークションを特色としています。

SushiSwap's MISO

人気のある分散型取引所 SushiSwap が提供するIDOプラットフォーム。様々なトークン販売の形式を提供しています。

PancakeSwap's IFO

Binance Smart Chain (BSC) 上で最も人気のあるDEX、PancakeSwapのIFO (Initial Farm Offering) プラットフォームです。BSCエコシステム内のトークン発行をサポートしています。

Balancer's Liquidity Bootstrapping Pool (LBP)

BalancerはDeFiのプロトコルで、LBPは新しいトークンの流動性を確保するための方法として提供されています。

TrustSwap's Launchpad

トークンプロジェクトの立ち上げと流動性の提供をサポートするプラットフォームです。様々なブロックチェーン上でのトークン発行をサポートしています。



DAO Maker

シャードされたダッチオークション、ダイナミックコインオフアリングなど、革新的なトークン販売機構を提供しています。

DuckDAO (DUCK)

DeFiエコシステム内でのコミュニティ主導のトークン販売をサポートするプラットフォームです。DuckDAOのコミュニティメンバーには特別なトークン販売へのアクセス権が与えられます。

Poolz (POOLZ)

多数のブロックチェーンネットワークに対応したクロスチェーンIDOプラットフォームです。DeFiプロジェクトへの早期アクセスを提供しています。

Paid Network's Ignition

インキュベーション、資金調達、アドバイザーなどのサービスを組み合わせたプラットフォームです。プロジェクトの資金調達から成長までをサポートしています。

BSCPad

Binance Smart Chain上のIDOプラットフォームです。BSCエコシステム内の新しいトークンの販売をサポートしています。

KYLIN (KYC/AML solutions)

KYC/AMLプロセスに特化したIDOプラットフォームです。投資家やプロジェクトの信頼性を確保するためのサービスを提供しています。

Zendit

Mantra DAOが提供するIDOプラットフォームです。オムニチェーンソリューションを特色としており、複数のブロックチェーンに対応しています。

SuperFarm (SUPER)

NFTとDeFiの統合を特色としたIDOプラットフォームです。ユーザーはトークンの販売だけでなく、NFTの作成や取引も行えます。

Yieldly (on Algorand)

Algorand ネットワーク上のIDOプラットフォームです。Algorandエコシステムのプロジェクトのサポートを主流にしています。

第 5 章

レバレッジは 必要ですか？



この章ではレバレッジ取引についての考え方について解説していききたいと思います。

1 知っているようで知らない レバレッジ取引

レバレッジ取引は、株式、為替、そして近年では特に仮想通貨の取引においても、投資家たちが大きなリターンを目指して利用する手法の一つとして浸透してきました。この手法の基本的な概念は、小さい証拠金で大きな取引量を持つことができる点にあります。これによって通常の取引よりもはるかに大きな利益を得ることができます。しかし、リターンが大きいということはリスクも必然的に大きなものになります。

例を挙げると、レバレッジが10倍の場合、自分の資金100ドルで実質1000ドル分の取引が可能となります。これは、もし価格が10%上昇した場合、100ドルの利益を得ることができるということを意味します。一方で、10%の価格の下落が起こった場合、100ドルの損失を被ることになります。このように、**レバレッジ取引は諸刃の剣とも言える性質を持っています。**

また、仮想通貨市場は24時間取引が行われるため、急激な価格変動が頻発する場面も少なくありません。これにより、レバレッジを用いて取引を行っている場合、価格の



変動による影響も大きく、資金の全額を失ってしまう可能性も考えられます。特に、仮想通貨市場はまだ新しいため、取引ボリュームが少ない時間帯や、特定のニュースによって価格が大きく変動することも珍しくありません。

その上、強制的に取引を終了させられる「強制ロスカット」というリスクも存在します。これは、証拠金が一定の水準を下回った際に、取引所やブローカーが自動的に取引をクローズするシステムを指します。このシステムは、投資家が大きな損失を避けるための安全装置として機能しますが、市場の急変動時には損失を最小限に留めることが難しくなることもあります。

レバレッジ取引は資金効率を大きく上昇させる一方でロスカット時には証拠金が全額没収されるなど、大きなリスクを抱えることになります。仮想通貨バブルでは現物資産で数百倍の伸びを見せることもあり、無理をしてレバレッジ取引を行う必要性はないと考えています。

投資用資金が100万円以上用意できる方であればレバレッジ取引ではなく、現物資産で勝負した方が無難です。

2 ショート？ 意味ありませんよ

バブル相場においてショート（空売り）は絶対にやめてください。

バブル相場においてショートを試みる人の考え方として、価格が短期的に急騰した後は少し下がるはずだという思い込みがあります。しかし、仮想通貨のバブル相場は予測困難かつ荒唐無稽で、価格の頂点を予測することは非常に難しいと言わざるを得ません。

さらに、仮想通貨の価格は非常に変動性が高く、情報の非対称性や市場の操縦、外部要因など、多くの要素が価格変動に影響を与えています。このような不透明かつ不確実な市場環境下で、ショートというリスクの高い戦略を採用することは、投資家にとって大きなリスクをもたらす可能性が高くなります。

さらに仮想通貨のショート戦略はリスクが大きいだけでなく、リターンも小さいです。

具体例を用いて考えていきましょう。

自分の資金が1000ドルでレバレッジ10倍のロング(買い)の場合、

価格が2倍になった場合の利益は9000ドルです。

価格が3倍になった場合の利益は19000ドルです。

自己資金が1000ドルでレバレッジ10倍のショート(空売り)の場合、9000ドルの利益を上げるためにはトークン価格が0にならなくてはなりません。

しかし実際問題トークン価格が0になることなどあるはずもなく、9000ドルの利益を出すことは物理的に不可能



です。9000ドル以上の利益を出すためには再度ポジションを組みなおしながら取引を続けなくてはなりません。

ポジションを組みなおすということは再度ロスカットのリスクを抱えるということです。

バブル期に仮想通貨の世界では1日で数倍の価格変動を行うことがあります。リスクが高い上にリターンも少ないショート戦略は絶対にやってはいけません。

3 テクニカルは役に立たない

仮想通貨系情報発信者の中にはBitcoinのチャート分析として、テクニカル分析を行っている人が多くいます。しかし彼らのいうことを真に受けてはいけません。そもそもテクニカル分析とは過去の値上がり、値下がりに理由をつけるために指標となるデータを編み出したことが発祥です。テクニカル分析は、過去の価格データや取引量をもとに将来の価格動向を予測する手法として、伝統的な金融市場で長らく使われてきました。

しかし、仮想通貨市場におけるテクニカル分析の有効性には疑問が持たれている点がいくつか存在します。

まず、仮想通貨市場はまだ新しい市場であり、その歴史が短いため、十分なデータが揃っていないという問題があ

ります。テクニカル分析は、長い時間軸での価格の動きやパターンを元に予測を立てるため、十分なデータが必要になります。しかしながら、仮想通貨市場はその成立から10年余りという短い期間しか経っていないため、統計的に有意な分析を行うことができるのか疑問が持たれています。

また、仮想通貨市場は非常に高い変動幅を持っています。この変動性は、突発的なニュースや規制の動向、市場参加者の感情など多くの要因によって影響を受けています。このような不確実性が高い市場で、テクニカル分析を用いて将来の価格動向を予測するのは、非常に困難です。

さらに仮想通貨市場は従来の伝統的金融市場に比べて大きな情報の格差が存在しています。一部の大手取引所や大口投資家が市場を動かす力を持つことがしばしば指摘されており、このような市場操縦によって、テクニカル分析に基づく予測を覆すことから有効であるとは言えません。

4 FRで削られて鼻血も出ねえよ

FR (Founding rate) とはレバレッジ取引を行う際にかかる費用の一部としてトレーダーに影響を及ぼします。

ここからはファウンディングレートについて簡単に解説していきます。



ファウンディングレートは、特定の期間ごとにレバレッジを使用して取引を行うトレーダー間での支払いまたは受け取りの金額を示す指標として用いられます。

これは無期限取引というレバレッジ取引のなかでは最もメジャーな取引形態です。

ファウンディングレートが正の場合、ロングポジションを持っているトレーダーはショートポジションを持っているトレーダーに対してファウンディング料を支払うことになり、逆にファウンディングレートが負の場合には、ショートポジションを持っているトレーダーがロングポジションを持っているトレーダーに支払うことになります。

このファウンディングレートの存在意義は、現物との価格乖離を埋めるために存在しています。ファウンディングレートを利用することで、トレーダー間の取引のバランスを調整し、市場の安定性を維持しようと各取引所が独自のレートで作成しています。

ファウンディングレートは、一般的に取引所ごとに異なり、さらに取引される仮想通貨のペアや市場の状況によっても変動します。

バブル相場においてファウンディングレートの存在は致命的です。

なぜならトークン価格が上がるという読みをする人間が多いので正のファウンディングレートにさらされ手数料を

支払い続けることになります。

さらにファウンディングレートは一日一回ではなく、数時間に一度の頻度でかかり続けます。仮に2%のファウンディングレートが4時間おきに掛かった場合、1000ドルで10倍のレバレッジ取引を行うと一日で800ドルの手数料がかかることになります。

前回のバブルでレバレッジ取引を行った人の中にも、ファウンディングレートのせいで利益を伸ばせなかった人は存在します。



第 6 章

バブルでの ワンポイントアドバイス



この章では私自身が前回のバブルで実践していたことについて書いていきます。

私は前回のバブルでは資産を120倍にまで膨らますことができました。多くの先人達からアドバイスをもらい、自分自身で実践してきたことの中で特に役に立ったアドバイスを5つにまとめたので、ぜひ参考にしてみてください。

1 天井で売りたい？ 無理です

バブル相場では資産を一時的に増やすことは容易です。しかし、バブル終了後に資産を増やしたまま退場できる人というのはごく一握りです。

誰しも欲があり、もう少し、もう少しという間にバブル崩壊のトークン下落に巻き込まれ資産をすり減らすことになります。

バブルというのは名前の通り水泡のように実体がありません。**このタイミングでバブルは終了すると明確に予測することは絶対に不可能です。**トークンを天井付近で売ることには執着することはやめてください。

撤退のタイミングは相場と相談することではなく、自分と相談することです。

次の節で撤退するタイミングについて解説していきます。



2 目標を先に決めろ

バブルでの撤退のタイミングは自分の目標額と相談し、あらかじめ撤退するタイミングを決定しておく必要性があります。

資産100万円、目標額1億円だった場合には資産を100倍にする必要性があります。資産を100倍にするためには相応のリスクをとる必要があります。

そして目標額を決め、目標額に到達する可能性のある投資先を見つけることができれば忍耐強く待つ必要があります。目標を先に決めることによって中途半端な投資をする必要が無くなり、資金効率を高めることにもつながるでしょう。

決めた目標に達するまではひたすらに複利で突っ込み続ける必要性があります。

投資においてもビジネスにおいても一度決めたことはやりきることが最も重要です。

市況が良く、まだまだ伸びそうなプロジェクトがあって投資し続けたいと思っても撤退してください。

目標額に到達したあとに投資し続ける必要性はありません。目先の欲に溺れるとせっかく手に入れた資産を失うリスクを背負うことになります。

3 仕事はサボれ

バブル期間中には真面目に仕事をしている場合ではありません。あなたがもしも普通の会社員や公務員であれば数千万、数億円の所得を得るためには20年、30年の期間が必要となります。しかしバブルでは1年足らずの期間で可能です。

さらに次のバブルが数百倍の利益を出すことができる最後のバブルです。

なぜなら仮想通貨市場に流入する時価総額は、常に上がり続けているからです。すでに高い時価総額のプロジェクトのトークン価格を上昇させるために必要な資金は低い時価総額のプロジェクトよりも多く必要です。

第一次仮想通貨バブル、第二次仮想通貨バブルを経て仮想通貨市場は大きくなり続けています。

当然、第三次仮想通貨バブルのために必要な資金はこれまで以上の資金が必要です。

第三次仮想通貨バブルでは大手企業が参入することで多くの資金が流入する目途があります。

しかし第四次仮想通貨バブルでは市場外の資金流入余力は残らないでしょう。

現代を生きる人たちが比較的容易に多くの利益を出す最



後のチャンスが次のバブル仮想通貨なのです。真面目に仕事をするよりもプロジェクトのリサーチや市場の分析に集中すべきです。

私は決して仕事を辞めて投資に集中するべきとは言いません。上手くサボる必要があります。前回のバブルの時は筆者自身、会社員でした。その中で私が実践したサボり方について記載していきます。

1.テレワークに切り替える

職場でサボりながらホワイトペーパーなどから情報収集を行うことは困難です。周囲の視線や、動きに集中力を乱されることもあります。テレワーク環境であれば周囲の視線を気にすることなく、集中してリサーチを行うことができます。

さらにテレワークには他にもメリットがあります。それは仕事の進捗が遅くても不自然ではない点です。テレワークを実際に経験したことがある方は分かると思いますが、テレワーク環境の仕事の進捗スピードは職場に出社している場合に比べ格段に低下します。

会社自身もテレワーク化によって業務進捗が遅れることを把握しているので、多少遅くなってしまうても不自然ではありません。だからとってのんびり仕事を進めていては元も子もないです。短期集中で仕事を終わらせ、余剰時間の確保に努めましょう。

2.仕事は土日にまとめて終わらせろ

プロジェクトの情報発表や、トークン価格の乱高下は平日に行われることが多いです。平日はできる限り情報をすぐに取得できる環境を構築する必要があります。時間のかかる仕事は土日に終わらせて、平日にあたかもやっているように提出してください。

3.進捗は小出しにしろ

土日で終わらせた仕事を平日に細かく報告したり、疑問点を小出しに提出することでサボっていることがバレづらくなります。ここで注意していただきたいのですが、メールやスラックにはどんな状況であっても即座に返信をする必要があります。

やり取りによって修正依頼が来ると思いますが、細かな修正はすぐに終わらせてください。大がかりな修正は土日にすべて終わらせて翌週に提出しましょう。

4.産休、育休、有給全部使え

使えるものはすべて使って時間をひねり出しましょう。

特に一日完全フリーにするタイミングは重要なトークンのセールや、上場戦のある日に合わせましょう。特に上場戦は事前準備がものを言います。急な仕事の連絡などで邪魔が入らないような環境を作ることが重要です。



4 電波がない環境には行くな

バブルの最中には電波の届かない環境に行ってはいけません。バブルでは情報の取得速度によって大きな利益を得られるチャンスが転がっています。逆に一個のFUDでせっかく上がっていた利益が水泡に帰すこともあります。飛行機に乗っていた数時間が原因で、せっかくのチャンスを失うことはあまりにももったいないです。

5 寝るな

最後のアドバイスは寝るなです。

冗談のように思えるかもしれませんが本気で言っています。投資のことを不労所得といっている人もいますが、仮想通貨バブルでの投資は、肉体労働&精神労働&頭脳労働のブラック環境です。有望なプロジェクトのIDOが集中した時は徹夜になることもざらにあります。

仮想通貨プロジェクトの主戦場は当然のことながらアメリカを中心とした海外プロジェクトが覇権を握っています。バブルで最も利益を出しやすいIDOの開催時間はプロジェクトの本拠地に準拠したタイムラインで開催されます。

前回のバブルでは、参加すれば最低でも10倍以上の利益が出せるといわれたIDOプラットフォームにCOINLISTというものがあります。

COINLISTは、開始時刻が午前2時～4時の間で毎週行われていました。順番待ちのために、PCの前で数時間待機する必要があります。

バブルにおいて安心して寝られる時間などありはしないのです。睡眠不足になることを恐れてはいけません。バブルにおいては寝ずにやり続ければ資産は増え続けます。

第 7 章

個人的に 期待している銘柄たち



ここからは私が個人的に注目している銘柄を紹介していこうと思います。

1 Bitcoin (\$BTC)

Bitcoinとは？

Bitcoinは言わずと知れた仮想通貨界の王様です。仮想通貨界の中ではゴールドに例えられることが多く、総発行枚数の少なさ、最初に作られた仮想通貨としての権威性から最も価値の安定した仮想通貨であるといえます。

すでに資産が数千万円レベルの方にはBitcoin購入を選択肢の中に入れていただきたいです。

すでに時価総額が大きいため10倍20倍の価格上昇を狙うことは難しいですが、バブル着火の導火線として機能することは間違いなく、Bitcoinが上がらなければバブルそのものが存在しないため最も堅実な投資対象としてとらえることができます。

2 Ethereum (\$ETH)

Ethereumとは？

EthereumはBitcoinと並んで最も有名な仮想通貨の一つ



です。BitcoinがゴールドであるならEthereumは石油です。Ethereumは世界で初めてスマートコントラクトといわれるブロックチェーン技術を開発しました。

これによって現在のDapps (分散型アプリケーション) を実行可能にした歴史があります。現在Ethereumチェーン全体の時価総額は世界一であり、他の追随を許していません。

いまなおEthereumの開発は続いており、世界中の人間がEthereumを使用しても稼働可能な環境作りを進めています。

筆者自身は使い道の少ないBitcoinよりもユーティリティに優れ、使用することを前提として作成されているEthereumの方が価値があると思っています。

EthereumはBitcoinの次に時価総額の大きなプロジェクトなので単体での値上がり幅で数十倍の利益を出すことは難しいでしょう。

しかしEthereumはどんな人でも購入する価値のある仮想通貨です。それはEthereumがDeFiのFarmingで最も使用されるケースの多いコインだからです。Ethereumと他のトークンをペアにしてDeFi運用を行うことで大きな利益を出すためにもぜひ入手しておいてほしいコインの一つです。

3 Arbitrum (\$ARB)

Arbitrumとは？

\$ARBはEthereumブロックチェーンのL2(レイヤー2)ソリューションとして開発されたArbitrumチェーンで発行されるトークンです。

Ethereumはその人気からトランザクションを実行するためにかかるコスト、いわゆるガス代が高騰する問題が起っていました。一時期は安い時でも50ドル、高い時には数千ドルレベルのガス代を使用して一回のトランザクションを行っていました。

この問題を解決するために作られたものがL2です。スマートコントラクトの処理の大部分をL2で行い、最後の書き込みのみをEthereumに委託することでEthereumチェーンの負荷軽減と分散化に貢献しています。

そんなL2の中でも最も大きい時価総額を誇っているチェーンがArbitrumです。

その基軸通貨である\$ARBの時価総額は2023年11月現在で40位前後とまだまだ上昇の余地を残しています。これは\$ARBに十分なユーティリティが実装されていないことに起因しています。将来性、安定感の面から優秀な投資先といえるでしょう。



4 Optimism

Optimismとは

\$OPも\$ARBと同様にEthereumのスケーラビリティ問題を改善するために開発されたL2の一つです。L2の中ではArbitrumチェーンの次に大きな時価総額を誇っており、非常に多くのプロジェクトがOptimism上にDappsをデプロイしています。

\$OPの時価総額も40位前後と\$ARBと同じような時価総額を誇っています。\$ARBと\$OP将来的にどちらのトークンが跳ねるかは分からないため、片方を全力で買うのではなく、両方に投資することをおすすめします。



5 Astar

Astarの特徴

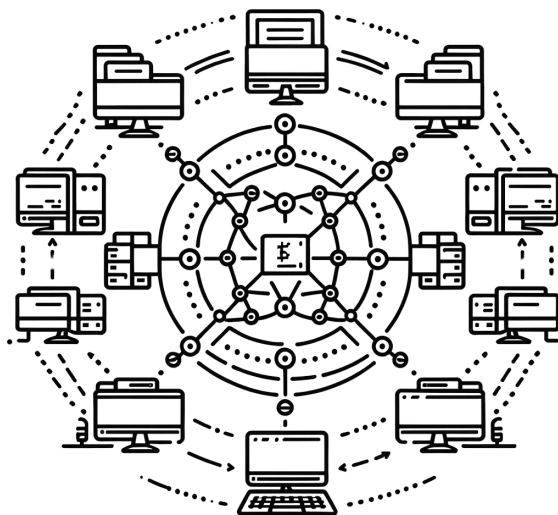
AstarはAstarNetworkのネイティブトークンです。

Astarはポルカドットエコシステムの一部としてEthereumのネットワークとポルカドットエコシステムを繋ぐために作られました。そして近年ではAstarZKEVMとして、L2としてもEthereumのネットワークに加わろうとしています。

Astarは日本人のワタナベソウタさんが代表として開発を行っていることもあり、日本企業との結びつきが強いです。

Astarはブロックチェーン立ち上げ時のDappsが上手く機能しなかったために市場からの評価はあまり高くありません。しかし日系大手企業の多くがAstarチェーンを活用したビジネスを検討していることもあり、将来性という面では大きな可能性があります。

時価総額も100位前後と決して高くないため、伸びた時には大きな価格上昇を期待することができます。





おわりに 1度のバブルは人生を変える

本書「よこせ1億!! 今から備える仮想通貨バブル」を最後までお読みいただきまして、誠にありがとうございます。

私たちの人生は、予想もしなかったタイミングで、予想もしなかった形で、転機を迎えることがあります。

私自身が仮想通貨バブルによって人生を変えることのできた人間の一人です。

この本を通じて伝えたかったのは、適当に投資すれば簡単に儲かるということではありません。

実際は働いているようには見えない投資という分野で成功を収めた人は目に見えない努力をしています。

チャートから目を離せず、トイレに行くこともできなか

った人や、外に出られず2日間ご飯を食べずに分析し続けた人もいます。

そうまでしてやってやっと思われるのが1億というお金です。

俗に億り人と言われる人とそれ以外の人では人生に大きな差があります。

1億円を持っている人間は年間利回り5%で運用することで年収500万円を得ることができます。日本人の平均年収が443万円であることを考えると1億円という金額は人生を買い戻すために必要な金額です。

人生を変える大儲けは、決して遠い夢物語ではなく、実現可能な目標であると私は信じています。

それを達成するためには、準備、計画、そして行動が必要です。本書を読んだすべての人に、自分だけの人生を切り開く力があると確信しています。

この本があなたの人生における変革の瞬間、そしてその後の輝かしい未来の礎となることを心から願っています。

そして、覚えておいていただきたいのは、大儲けは一時的なものかもしれませんが、それをきっかけに手に入れることができる経験、知識、そして智慧は一生ものです。

そうした財産は、どんな市場の変動にも左右されることがなく、あなたのものとなります。

私たちは皆、自分自身の物語の主人公です。それぞれ異なる背景、夢、挑戦を持ちながら、我々は人生という名の壮大な旅を続けています。

どうか本書が、あなたの物語において素晴らしい章の一つとなり、未来への一步を踏み出す勇気を与えてくれますように。

最後になりましたが、本書を可能な限り多くの方々に届けるための努力を惜しまなかった出版チーム、そして私の旅路を支えてくれた家族、友人、そして何よりも読者の皆様への深い感謝の意を表します。

一度の大儲けは、単なる金銭的な勝利ではなく、人生を豊かにするための一つの手段であり、その達成に向けてあなたと共に歩んでいけることを嬉しく思います。

ここから始まる新しい物語に、幸運が常にあなたと共に
ありますように。

関ジョージ



関ジョージ (せき じょーじ)

1991年香川県生まれ。

東京工業大学在学中に仮想通貨投資に興味を持ち、2017年から本格的に仮想通貨取引を開始する。参入当初はBITCOINをメインとしたレバレッジ取引を主軸に行っていたが、Defiやブロックチェーンゲームの高APRプロジェクトを主戦場に切り替える。2021年の仮想通貨バブルでDoge、PancakeSwap、AxiInfinity、Crabada、STEPNなどのメガヒットプロダクトにいち早く参入することで資産を120倍に膨らませた。現在は運用益を元にドバイとシンガポールの2拠点で生活。

2024年5月15日 初版発行

著者／関ジョージ

監修／星野さき、Bコミ

DTP／株式会社ビーパブリッシング

印刷所／株式会社クリード

発行／関ジョージ

©Seki George 2024

※本書の内容の一部または全部を無断で複製、転載することを禁じます。